はじめに

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、本当の外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる**のが、
古文のオイシイところです。

さて、「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール」**です（「読解のルール」の中には、**「古文常識」**や**「作品常識」**
といわれるものも含みます）。三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
古文ができない、読めないという人のほとんどは、この「文法」と「単語」をおろそかにしてしまっています。
この講座は、この土台の一つである、**「文法」の入試に必要な知識を全十二回で身につけてしまう講座**です。
基本から説明をして、難関大といわれている大学の文法入試問題も解けるようにしていきますので、
「古文なんて大キライ」という人も、
「古文には多少自信があってさらに得意科目にしたい」という人も、
「嫌いかどうかすらわからないくらい、何ひとつ勉強していない」という人でも！
どんな人でも大歓迎です。
この講座で文法のコツをしっかりつかんで、是非、古文を得点源の科目にしてください！
三年生になり、さらに忙しくなった時に、古文で苦しまなくてもいいように、今の間に一緒に仕上げてしまいましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。ノートも不要です。**テキストと筆記用具**さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。
書き込み用のペン（何色でも可）をご準備ください。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。
その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。
なお解答欄はありませんので、選択式問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。
ちなみに、**〈例題〉はオリジナル問題**で、**「問題」は実際の入試問題**です。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。テキストに書いてあること全てが大事なことなのですが、特に**太字になっているところ**や**空欄に自分で書き込んだところ**に関して、重点を置いて覚え込むまで何度も復習してください。
復習が終わったら、後ろにある**「復習問題」**（全て入試問題で作成）を解きましょう。復習問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「復習問題」を解き直してください。

この「復習問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」……p. 4
第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」……p. 17
第三講　「ず」／「き・けり」／「つ・ぬ」／「たり・り」／「ぬ」・「ね」の識別……p. 27
第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別……p. 42
第五講　「まし」／「推定系の助動詞」／「希望系の助動詞」／「む・むず」／「じ」……p. 56
第六講　「らむ・けむ」／「らむ」の識別／「べし・まじ」……p. 67
第七講　2つの「なり」／「なり」の識別……p. 79
第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」……p. 90
第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別……p. 106
第十講　「終助詞」／「ばや」の識別／「なむ」の識別／「呼応の副詞」……p. 117
第十一講　「に」の識別／「敬語」⑴……p. 132
第十二講　「敬語」⑵……p. 143

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

★歴史的仮名遣い

〈表記〉

（現代語→古文）

① じ　→「ぢ」／ず　→「づ」

② 促音「っ」→つ　／　拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

〈読み方〉

（古文→現代語）

① ゐ　→「　　」

② ゑ　→「　　」

③ くゎ　→「　　」／　ぐゎ　→「　　」

④ 語頭以外の「はひふへほ」→「　　　　」

⑤ a＋う　→「　　」／　i＋う　→「　　」／　e＋う　→「　　」／　o＋う　→「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★歴史的仮名遣いにおける五十音図

ア行	あ		う		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う		を

★品詞＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

○**名詞＝「　　　　」**

○**動詞・形容詞・形容動詞＝「　　　　　　」**

★活用する品詞＝四個　※活用する＝形が変わること

「動詞」・「形容詞」・「形容動詞」・「助動詞」

★**活用形**＝六種類

「未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形」

○活用形を考える時は「　　　　　」を見る。

活用形	下の語
未然形	ず
連用形	用言・けり・たり（完了）・て・、
終止形	。・」・引用の「と」
連体形	体言
已然形	ども
命令形	。・」・引用の「と」

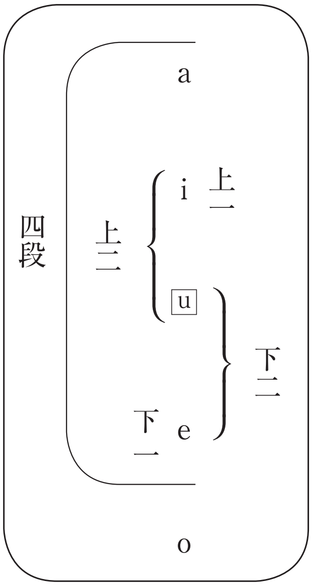
© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

動詞

★活用の種類＝九種類

「四段活用・上一段活用・下一段活用・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用」

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	[り]	る	れ	れ



上一→下一＝i→け
上二→下二＝i→e

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★活用の種類の見分け方

① 覚えておくべきもの

上一段活用＝「**干(ひ)る**」「**射(い)る**」「**鋳(い)る**」「**着(き)る**」「**似(に)る**」「**煮(に)る**」「**見(み)る**」「**居(ゐ)る**」「**率(ゐ)る**」（「**率ゐる**」「**顧みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

カ行変格活用＝「**来(く)**」・「**〜来**」（**→**「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変

○「**〜す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの　（例）「旅す」など

○「**〜んず**」の形＝サ変が多い。　（例）「信ず」「案ず」「論ず」など

○「**漢字一字の音読み＋す**」　（例）「奏(そう)す」「具(ぐ)す」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往(い)ぬ**」「**去(い)ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居(を)り**」「**侍(はべ)り**」「**いまそかり**」（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

② ①にないもの**→**「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず**→四段**活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず**→上二段**活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず**→下二段**活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	③カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	③マ行上一段活用

① 「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

② 「語幹」＝「基本形」―「終止形」の文字

（例）「咲く」―「く」＝「咲」が語幹

「見る」―「みる」＝語幹なし

③ ○行＝一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行　（例）「咲**く**」＝**カ行**四段活用

一段活用は基本形の「**る**」**の**「**上**」の文字の行　（例）「**見**る」＝**マ行**上一段活用

〈例題一〉「居る」の活用の種類を答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「覚ゆ」の活用の種類として、最も適切なものを一つ選びなさい。

a　上一段　　b　下一段　　c　四段　　d　上二段　　e　下二段

問二　「侍る」と活用の種類が同じ動詞を、次のa〜eの傍線部の中から一つ選べ。

a　漏れ聞き候ふべく候ふ。

b　嫌(もど)き誹(そし)りぬべからむこと、…

c　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。

d　また、知る人、すずろに…

e　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

問三　「『あの法師捕らへよ』と、…」の傍線部について、基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを後の中から選べ。

〈活用の種類〉

a　四段活用　　b　下一段活用　　c　下二段活用　　d　ラ行変格活用　　e　ナ行変格活用

〈活用形〉

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「死して」の傍線部の活用の種類として最適なものを次のア〜エから選べ。

ア　ナ行変格活用　　イ　ナ行四段活用　　ウ　サ行四段活用　　エ　サ行変格活用

問五　次のA・Bの傍線部の動詞「まねぶ」・「取り出で」の、1　活用の行　2　活用の種類　3　活用形は何か。該当するものを、後のア〜カの中からそれぞれ一つずつ選べ。

A　若き人々もこのことまねぶをば、御心とどめてをかしきものにおもほしたれば…

B　心やすくも取り出でたまはず、いといたく秘めて、…

1　ア　ア行　　イ　タ行　　ウ　ダ行　　エ　ナ行　　オ　バ行　　カ　マ行

2　ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　上二段活用　　エ　下一段活用　　オ　下二段活用　　カ　変格活用

3　ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

A　1＝　　2＝　　3＝

B　1＝　　2＝　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

○ 射(い)る・鋳(い)る ＝ 　行上一段活用
○ **得(う)**・心**得(こころう)**・所**得(ところう)** ＝ 　行下二段活用
○ 植(う)う・飢(う)う・据(す)う ＝ 　行下二段活用
○ 老(お)ゆ・悔(く)ゆ・報(むく)ゆ ＝ **ヤ行**上二段活用

問六　次の傍線部a・b・c・d・eの動詞の活用の種類として最も適切なものを、後の①～⑩の中から一つずつ選べ。ただし、同じ番号は一度しか選べない。

植ゑ[a]などしたりけり。
営み　ゐ[b]たり。
鶯のまだ　見え[c]ぬは。
心も　得[d]ぬことかな
射[e]落として侍り

① ア行四段活用　② ア行上二段活用　③ ア行下二段活用　④ ハ行四段活用
⑤ マ行上一段活用　⑥ マ行下二段活用　⑦ ヤ行上一段活用　⑧ ヤ行下二段活用

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑨　ワ行上一段活用　　⑩　ワ行下二段活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問七　次の二重傍線部の動詞a「老い」・b「損なは」の活用の種類と、活用形を記せ。

年老い[a]たる女房の、「あれは御腹の損なは[b]せ給へるを、…

a＝　　b＝

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→**「訳し方の違い」**がある。

- 四段＝そのまま訳す
- 下二段＝四段の意味＋「　　　　」

（例）「入（い）る」

四段＝中にはいる。

下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※入試頻出の「二種類ある動詞」三個

○**「被く」**（かづく）
四段＝かぶる・褒美をいただく
下二段＝かぶせる・褒美を与える

○**「頼む」**
四段＝頼みにする・あてにする
下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

○**「慰む」**
四段＝心が晴れる
下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

問八　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★終止形が一文字の動詞

来　す　得　寝　経

音便

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て　＝「**イ音便**」という。

【動詞】

○イ音便「き・ぎ・し」→「い」

○ウ音便「ひ・び・み」→「う」　（例）買**ひ**て→買**う**て

○**促音**便「ひ・ち・り」→「つ」　（例）買**ひ**て→買**っ**て

○**撥音**便「に・み・び」→「**ん**」　（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

①「かはれども」の傍線部の活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

②　次のA・Bの傍線部の動詞「心得」・「酔ひ」の、
1　活用の行　　2　活用の種類　　3　活用形
は何か。該当するものを、後のア〜カの中からそれぞれ一つずつ選べ。（重複使用可）

A　神主も心得て、大土器をぞまゐらせしに、…
B　さばかり酔ひなむ人は、…

1　ア　ア行　　イ　カ行　　ウ　ハ行　　エ　ヤ行　　オ　ラ行　　カ　ワ行
2　ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　上二段活用　　エ　下一段活用　　オ　下二段活用　　カ　変格活用
3　ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

A　1＝　　2＝　　3＝
B　1＝　　2＝　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　ア～オの文節中に含まれている動詞の活用の種類が、他と異なるものを一つ選べ。

ア　劣れり
イ　詠むべからず
ウ　まされるが
エ　とがめけり
オ　持ちたりけり

④　「ゐたりけり」の「ゐ」と活用の種類の同じ動詞を、次のア～エの中から一つ選べ。

ア　見ければ　　イ　飛び来て　　ウ　寝たる　　エ　しける

⑤　「早苗を植□、水をせき入れ…」の空所に当てはまる動詞の活用語尾として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　え　　イ　ゑ　　ウ　へ　　エ　う　　オ　ふ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**～し**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ク活用・シク活用**」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「**～くなる**」＝**ク**活用、「**～しくなる**」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ク活用	白し	白						
			から	かり	○	かる	○	かれ
シク活用	をかし	をか	しく	しく	し	しき	しけれ	○
			しから	しかり	○	しかる	○	しかれ

※「　　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★語幹用法→「訳し方」を覚える

○ **和歌中** A（**を**）B**み** ＝「**AがBなので**」（例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

○ **あな**（「**あら**」）もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、～。**」（例）あな、かま＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

形容動詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**～なり**」「**～たり**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ナリ活用・タリ活用**」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	静か	なら	／なり	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	堂々	たら	／たり	たり	たる	たれ	たれ

※ 連用形「　　・　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

音便

【形容詞】

○イ音便　「き」→「い」　（例）白**き**花→白**い**花
○ウ音便　「く」→「う」　（例）苦し**く**て→苦し**う**て
○撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「かる・しか**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「かん・しかん」
　※この「ん」は省略されやすい。
　（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

○撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「な**ん**」
　※この「ん」は省略されやすい。
　（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

問一　「根を深み」の現代語訳として最も適当なものを一つ選べ。

1　根が深くなければ
2　根を深く掘り
3　根を深くすれば
4　根が深いだろう
5　根が深いので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の傍線部①・②について、それぞれ基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを後の中から選べ。

「せむ方　①なかりければ、…」
「ある小家の　②あやしげなるに立ち寄りて、…」

〈活用の種類〉
a　四段活用　b　下一段活用　c　下二段活用　d　ラ行変格活用　e　ナ行変格活用
f　ナリ活用　g　タリ活用　h　ク活用　i　シク活用

〈活用形〉
ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

①　・　・
②　・　・

問三　「同じ心なる友なくてただひとり眺むるは、いみじき月の光もいとすさまじく、見るにつけても恋しきこと多かるこそ、いとわびしけれ」の文中に形容詞はいくつ用いられているか。正しい数を次の中から選べ。

ア　3　イ　4　ウ　5　エ　6　オ　7　カ　8

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

助動詞

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	けり・たり・なり・めり・り　**※断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	**じ・らし**
形容詞型	まほし・たし・べし・まじ・ごとし　（**※「じ・らし・まし」以外の「～し・～じ」**）
四段型	**む・らむ・けむ**
サ変型	む**ず**
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず・き・まし**

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						○
	ざ[ら]	ざ[り]	○	ざ[る]	ざ[れ]	ざ[れ]
き		○				○
まし		○				○

↓下に「　　」がつく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**【接続】**（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四段已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「さらに来じ」の傍線部の読みを平仮名で書け。

問五　「忘れ［　A　］けり」の空欄Aにあてはまる「ず」の助動詞を適切な活用形にして書きなさい。

問六　次のA・Bの波線部の活用の行、活用の種類、活用形をそれぞれ書け。

A「心のどかに聞こえむ」
B「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」

A＝
B＝

問七　「人はいかにおもふらむ、…」の傍線部の活用の行、活用の種類、活用形をそれぞれ書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　次の空欄には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで、記せ。

釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［　　］。

＊係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ
なむ
や
か
｝〜　　　。

こそ　〜　　　。

問九　「生ひなりたるらん」の品詞分解として、最も適当なものを次の中から選べ。

①　動詞＋助動詞＋助動詞
②　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
③　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
④　動詞＋動詞＋助動詞
⑤　動詞＋動詞＋動詞＋助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

①　次の波線部a・bの「来」の読みとして、正しいものを後のア～オの中から選べ。

「ここに参り　来[a]べかりければこそと、…」

「参り　来[b]むことのわりなかるべきこと」

ア　こ　　イ　き　　ウ　く　　エ　くる　　オ　くれ

a＝　　　b＝

②　次の空欄 A ・ B には助動詞「ず」がはいる。それぞれにふさわしい形を後のア～オの中から選べ。

「秀郷も後ろをかへりみ A 、はるかに行き隔たりぬ。」

「夢も結ば B 仮寝の枕、…」

ア　ず　　イ　ざり　　ウ　ぬ　　エ　ざれ　　オ　ね

A＝　　　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　「深く心得べきなり」の文法的な説明として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ア行下二段活用動詞の連体形　　イ　ア行下二段活用動詞の終止形
ウ　ハ行下二段活用動詞の連体形　　エ　ハ行下二段活用動詞の終止形
オ　ワ行下二段活用動詞の連体形　　カ　ワ行下二段活用動詞の終止形

④　「窓をへだててかくぞいひ［　　］。」の空所に当てはまる助動詞として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　き　　イ　しか　　ウ　たり　　エ　ける　　オ　けれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講 「ず」／「き・けり」／「つ・ぬ」／「たり・り」／「ぬ」・「ね」の識別

ず

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
未然形	ず						○	特殊型
		ざ	ざ	○	ざ	ざ	ざ	ざ＋ラ変型

【意味】

① 打消（～ない）

問一　「なかなか止まるべきにあら<u>ざれ</u>ば、…」の傍線部の終止形を答えなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

き・けり

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	き							特殊型
形	**けり**	**けら**	○	**けり**	**ける**	**けれ**	○	**ラ変型**

【意味】

○「き」　①「　　　」過去（～た）→「　　　」の経験

○「けり」①「　　　」過去（～た・～たそうだ）→「　　　」の経験

②詠嘆（～よ・～なあ）

※「けり」が**詠嘆**になる場合

1「　　　中」の「けり」

2「　　　**けり**」の「**けり**」

3「べかり**けり**」の「**けり**」

4 **会話文**中の「けり」（→文脈判断。**まず詠嘆**で訳す。おかしければ過去。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　「合はせ［ａ］ども、…」の［ａ］に助動詞「き」を正しく活用させて入れよ。

問三　「いみじうつらき御心なりけり」の二重傍線部「けり」の助動詞の意味は何か答えよ。

つ・ぬ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	つ							型
形	ぬ							型

【意味】

①　完了（～た）

②　強意（きっと～・必ず～）（＝確述用法）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　　　　」を見る

② **強意**になるとき

つ　ぬ

＋「　　　　　」

※下枠参照

てむ
なむ
（**て**ん）
（**な**ん）
てまし
なまし
てけむ
にけむ
つべし
ぬべし
つらむ
ぬらむ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この使ひを失ひつらむ心憂さよ。

② いふかひなくて、ともに帰りぬ。

③ こはいかなる物を食はせつるぞ。

④ よその眠も覚めつべし。

⑤ 今は世の花も、盛り過ぎぬらむ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たり・り

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型
	り	ら	り	り	る	れ	れ	ラ変型

【意味】

① 完了（～た）
② 存続（～ている・～てある）

〈見分け方〉

まず「　　　　」で訳す。→おかしければ「　　　　」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　次の傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、後の中からそれぞれ一つずつ選べ。

物思ひすがたにて出で[a]にけり。
春は廿九日（にじふく）あるかと候ひ[b]しを…

ア　推量　　イ　使役　　ウ　断定　　エ　過去　　オ　完了　　カ　尊敬

a＝　　　　b＝

問五　次の傍線部①・②の意味として、最も適当と思われるものを、ぞれぞれ後の中から選べ。

とてもかくても過ぎ[①]なん。
恩所あれども生を変へ[②]ぬれば、…

ア　可能　　イ　自発　　ウ　完了　　エ　受身　　オ　打消推量
カ　意志　　キ　強意　　ク　過去　　ケ　推量　　コ　現在推量

①＝　　　　②＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ぬ」・「ね」の識別

【識別対象】

1 「　　」の助動詞「ず」
2 「　　」「　　」の助動詞「ぬ」
3 ナ変動詞「　　」「　　」・「　　」の活用語尾
4 ナ行下二段動詞「**寝**（ぬ）」の一部

3 ＋
ね　ぬ

4 「　　」と訳せる

基本形	接続	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
ず	形							特殊型
		ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざ＋ラ変型
ぬ	形							型

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈「打消」と「完了」の見分け方〉＝「　　」→「　　」

①「　　」（＝接続）確認

1　**未然形**＋ | ぬ　ね | ＝「　　」

2　**連用形**＋ | ぬ　ね | ＝「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② 「　　」（＝活用形）確認

● 『ぬ』

1 ぬ＋連体形接続の語
連体形＝「　　」

「打消」→ぬ＋体言

2 ぬ＋「　　」。
（終止形接続の語）
終止形＝「　　」

※ただし、文末の「ぬ」の時、**係助詞**と**疑問副詞**に注意！

文中に **係助詞「ぞ・なむ・や・か」** **疑問副詞（「いか系」「な系」）** がある→文末の「ぬ」は「　　」形→「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

● 『ね』

1　ね＋已然形接続の語

→ **已然形**＝「　　　　」

ねば
ねど（も）
こそ〜**ね**
↓ **打消**「ず」の已然形

2　ね＋命令形接続の語　」。

→ **命令形**＝「　　　　」

※ただし、文末の「ね」の時、**係助詞「こそ」**に注意！

問六　次の傍線部ア・イの「ね」について、例にならって文法的に説明せよ。（例）尊敬の助動詞「る」の連体形

「とくとく帰りね（ア）」　ア＝

「君がすみかをそこと知らねば（イ）…」　イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　次のア〜オの二重傍線部「ぬ」はいずれも助動詞であるが、ひとつだけ種類の異なるものを選べ。

ア　秋になりぬ。
イ　打松おどろおどろしからぬほどに置きて、…
ウ　うちとけぬさまにものをつつましと思したる気色、…
エ　恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
オ　酔泣きのついでに、忍ばぬこともこそ

問八　次の傍線部ア〜オのうち、文法上同じ意味を持つ助動詞の組み合わせとして、最も適切なものを後の中から選べ。

「鶯うちなんどして、やるな（ア）」
午の刻の下がりまで見えね（イ）ば、…
「取りて参らむ」とて立ちぬ（ウ）。
「心も得ぬ（エ）ことかな」
この男の気色に（オ）おそれて、…

①　アーウ　　②　アーオ　　③　イーウ　　④　イーエ　　⑤　ウーエ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　「ず」／「き・けり」／「つ・ぬ」／「たり・り」／「ぬ」・「ね」の識別

①「仰せ合せしかば、人の亡び失せし事、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

②「鰐（わに）に食ひ切られたるなりけりと見る程に、…」の傍線部「けり」と同じ意味・用法の「けり」が使われている文を、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国もとめにとて行きけり
イ　八重葎（むぐら）しげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり
ウ　野山にまじりて竹を取りつつよろづの事に使ひけり
エ　いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり

③〜「うせさせ給ひぬるやうなる。」の波線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　命令　　イ　断定　　ウ　当然　　エ　意志　　オ　推量　　カ　完了
キ　伝聞　　ク　使役　　ケ　尊敬　　コ　禁止

④　「あまた年経ぬれば、…」の傍線部の活用の種類と活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　四段活用・未然形
イ　四段活用・連用形
ウ　下二段活用・未然形
エ　下二段活用・連用形
オ　ラ行変格活用・未然形

⑤　傍線部ア～エの「ぬ」について、一つだけ他と用法の異なるものを選べ。

かなはでやみ（ア）ぬと口惜しきに
分け行く道も見え（イ）ぬに、
鎌倉より二日にまかり聞き（ウ）ぬ。
忍びて、また年も返り（エ）ぬ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥　次のⅰ・ⅱの傍線部「ぬ」「ね」の文法上の意味として最も適切なものを後のａの中からそれぞれ選べ。また、その活用形として正しいものを後のｂの中からそれぞれ選べ。

ⅰ「今年はいまだ郭公こそ聞かね。」
ⅱ「さらばまことも汚れぬべしとて、〜」

ａ　ア　過去　イ　打消　ウ　過去推量　エ　存続　オ　意志
　　カ　婉曲　キ　強意　ク　尊敬　ケ　推量　コ　当然

ｂ　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

ⅰ　ａ＝　　ｂ＝　　　ⅱ　ａ＝　　ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

る・らる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の**未然形**	る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	下二型
それ以外の**未然形**	らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	下二型

※「　・　・　」の未然形＝「　」段＋る
　それ以外の未然形　　＝「　」段＋らる

問一　次の二つのグループ（Ⅰ群、Ⅱ群）のうち、Ⅰ群からは、二重傍線部が助動詞「る」では**ない**もの、Ⅱ群からは、波線部が助動詞「らる」では**ない**ものを、それぞれア〜エから一つ選べ。

Ⅰ　ア　たまへる　　イ　騒がれむ　　ウ　けしきどらる　　エ　急がるる

Ⅱ　ア　ながめのみせられて　　イ　仰せられき
　　ウ　心もとながられ　　エ　仰せらるれど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【意味】

① 受身（〜れる・〜られる）
② 可能（〜できる）
③ 自発（自然と〜される）
④ 尊敬（〜なさる・お〜になる）

〈見分け方〉

① 受身＝「〜に」がある。もしくは補える。
② 可能＝る・らる＋「　　　」
③ 自発＝「　　　」動詞 or 「　　　」動詞 ＋る・らる
④ 尊敬＝**主語が貴人**〜＋る・らる

尊敬語
給ふ
（ら）れ ＝「　　　」
←「　　　」か「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙のみすすみてよよと泣かる。

②　さこそあらめなど、仰せらるれど、…

③　なかなかにいも寝られず、「これは夢か」とのみ…

④　御簾の吹き上げらるるを、人々押へて、…

問二　次の傍線部イ・ロの文法上の意味は何か。後の中から最も適当なものを次の中から選べ。

この者どもに養はれ(イ)て行きけるほどに、…
故なく心細く思ひ続けられ(ロ)て、…

①　受身　　②　可能　　③　完了　　④　尊敬　　⑤　自発

イ＝　　　　ロ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「日の本にいははれ給ふいはしみづ参らぬ人はあらじとぞ思ふ」の傍線部の職能（文法上の意味）として正しいものを、次の中から選べ。

注　日の本…日本。
いははふ…神としてあがめ祭る。
いはしみづ…石清水八幡宮。

①　受身　②　尊敬　③　自発　④　可能　⑤　完了

問四　「よからぬものの世のたとひとか聞きしと思し出でられて」に用いられている助動詞をすべて抜き出し、それぞれの終止形と文法的意味を答えなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「る」・「れ」の識別

【識別対象】
1　「　」「　」「　」「　」の助動詞「る」
2　「　」「　」の助動詞「り」
3　活用語の一部

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	る	**れ**	**れ**	**る**	るる	るれ	れよ	下二型
	り	ら	り	り	**る**	**れ**	**れ**	ラ変型

〈見分け方〉＝「　」の「　」
1　「　」＋る・れ→助動詞「る」
2　「　」＋る・れ→助動詞「り」　⇩　※上が「　」と「　」の時、注意！
3　「　」＋る・れ→活用語の一部

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　次の傍線部ａ・ｂの助動詞について、その終止形をそれぞれ答えなさい。

弟殿には人柄・世おぼえの劣り給へ(ａ)ればにや、…

「そこは申さ(ｂ)れぬか」とのたまはせければ…

ａ＝　　　　ｂ＝

問六　「絵に描(か)ける御姿のおはするは、…」の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　受身　　2　可能　　3　尊敬　　4　打消

5　存続　　6　意志　　7　婉曲　　8　命令

問七　「いよいよわするる事なくて、…」の傍線部と同じ働きのものを、次の中から一つ選べ。

①　鬼のしこ草といへるは、…

②　親うせにけるのち、…

③　生きたる親などに向ひていはむやうに、…

④　心におぼゆる事は…

⑤　「しこの草とは書けるなり」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「木の枯れて朽ち残れるが立てる下に、…」の傍線「る」の文法的意味・用法と同じものを、次のうちから一つ選べ。

1　うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しもひとりし思へば
2　うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔
3　いかめしき御堂ども建てて、多くの人なむ造り営み侍るめる
4　家の造りやうは夏をむねとすべし、冬はいかなる所にも住まる
5　明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしきあさぼらけかな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

す・さす・しむ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の**未然**形	す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下二型
それ以外の**未然**形	さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	下二型
未然形	しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	下二型

※「四段・ナ変・ラ変」の未然形＝「　」段＋す
　それ以外の未然形＝「　」段＋さす

【意味】

① 使役（～せる・～させる）

② 尊敬（～なさる・お～になる）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　　」を見る。

「　　」＝す・さす・しむ＝「　又は　」

す・さす・しむ＋「　　」＝給ふ／おはす（おはします）／らる

ない　←　　→　ある

（ない→「　　」、ある→「　又は　」）

※真下に尊敬語がある場合→「　　　」を確認

「人に」「人をやりて」「人を召して」「人に命じて」「人して（＝に命じて）」がある→「　　　」

「人に」が補える→「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 書きたるを御覧ありて、大いに笑はせおはしまして、…

② それを、張らせてまゐらせむとするを、

③ 御供なる右近大夫を召して、点しつけさせたまふ。

④ 皇后宮聞かせ給ひて、いみじう喜ばせ給ふを、…

⑤ 心にくき限りの女房、四五人ばかり候はせ給ひて…

※候ふ＝お仕えする

問九 「人参りて、判ぜさせたてまつるに、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1 推量　2 使役　3 断定　4 過去　5 完了　6 尊敬

問十 「竟宴（きやうえん）といふこと、春日殿（かすがどの）にて行はせたまふ。」の波線の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1 可能　2 受身　3 完了　4 使役　5 尊敬　6 自発　7 婉曲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「せ」の識別

【識別対象】

1　使役・尊敬の助動詞「す」の「　　　」形か「　　　」形
2　「　　　」の助動詞「き」の「　　　」形
3　サ変動詞「す」の「　　　」形

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	す	**せ**	**せ**	す	する	すれ	せよ	下二型
形	き							特殊型
	動詞「す」	**せ**	し	す	する	すれ	せよ	

〈見分け方〉

1　上が「　　　」形（「　　」段）＝助動詞「す」
2　「（「　　」形＋）**せ**　～　　」の「**せ**」＝助動詞「き」
3　「　　　」と訳せる「せ」＝サ変

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題三〉　次の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを後の選択肢の中からそれぞれ選べ。（重複使用可）

① いかさまにせむと沈み臥したまへるに…

② とらへてよませける。

③ 夢と知りせば覚めざらましを

④ 源氏の物語、人に読ませ給ひつつ…

ア　使役の助動詞「す」　　イ　尊敬の助動詞「す」

ウ　過去の助動詞「き」　　エ　サ行変格活用動詞「す」

①＝　②＝　③＝　④＝

問十一　「男なりせば…」の傍線部の終止形を答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

① 「思ひ知らるる事も侍り」の文法上の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

② 「心の苦しみを知れれば、…」の波線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　自発　　ウ　可能　　エ　存続
オ　推量　　カ　当然　　キ　意志　　ク　否定

③ 「しばしはここかしこもとむれども、…」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　動詞の活用語尾
イ　受身の助動詞
ウ　自発の助動詞
エ　尊敬の助動詞
オ　完了の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「生けるがごとし」の「る」と文法上同じものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　めづらしき事をきこゆるものかな
イ　よろづの遊びをぞしける
ウ　なほ奥つ方に生ひ出でたる人
エ　うらうらに照れる春日にひばり上がり
オ　我が身ひとつに限るべき事かな

⑤「僧達近う候ひて、御念仏をして聞かせ奉る。」の波線部の文法上の意味として最も適切なものを、後の中から選べ。

ア　命令　イ　断定　ウ　当然　エ　意志　オ　推量　カ　完了
キ　伝聞　ク　使役　ケ　尊敬　コ　禁止　サ　過去

⑥「地獄に落ちさせ給はん事こそ、あさましく侍れ」の傍線部の文法上の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　尊敬　イ　完了　ウ　自発　エ　使役　オ　可能　カ　過去

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　「まし」／「推定系の助動詞」／「希望系の助動詞」／「む・むず」／「じ」

まし

接続	助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし		○				○	特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）

A ｛ **せ** ／ 「　　」 ／ 「　　」 ／ 「　　」形 ｝ ば　B　**まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　　」の助動詞「　　」の「　　」形

② **ためらいの意志**（～ようかしら）

「　　」＋～**まし**

③ 仮想（～ならよかった）

④ 推量（～だろう）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉「これになにを書かまし。」の傍線部を現代語訳せよ。

問一　「居まし」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

a　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
b　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞
c　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
d　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

問二　「夕の雲の誘はざらましかば、かかる所の月は見ざらましを、心ありけり」の傍線部の現代語訳として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　夕べの雲に誘われるようなことがあれば、こういうきれいな月をみることもあっただろうに。
b　夕べの雲に誘われなくても、こういうきれいな月はぜひともみておかなければならない。
c　夕べの雲に誘われなかったので、夜、雨が降らず、こういうきれいな月をみることができたのだ。
d　夕べの雲が誘ってくれなかったら、こういうきれいな月をみることはなかっただろうに。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

めり・らし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	めり	○	めり	めり	める	めれ	○	ラ変型
	らし	○	○	らし	らし	らし	○	無変化型

【「めり」の意味】

① （「　　」判断による）推定（～**ようだ**）※語源＝「　　」＋あり

② 婉曲（～**ような**）

【「らし」の意味】

① 推定（～らしい）

問三　「言ふめれば、…」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　　イ　推定　　ウ　断定　　エ　伝聞　　オ　尊敬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まほし・たし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まほし	**まほしく** まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○ ○	形容詞型
形	たし	**たく** たから	たく たかり	たし ○	たき たかる	たけれ ○	○ ○	形容詞型

【意味】

① 希望（〜たい）

ごとし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし	**ごとく**	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形容詞型

【意味】

① 比況（〜ようだ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

む･むず（＝「　　・　　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む	○	○	む	む	め	○	四段型
形	むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○	サ変型

【意味】　＝「スイカかえて」

① 推量（～だろう）
② 意志（～よう）
③ 勧誘（～ませんか）
④ 仮定（～としたら）
⑤ 婉曲（～ような）
⑥ 適当（～するのがよい）

〈見分け方〉　＝「　　　」か「　　　」に分ける。

○「　　」＝「仮定」・「婉曲」
○「　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「**文中**」の「む」の意味

○　〜む＋**体言**→「　　　　」

○　〜む＋助詞→「　　　　」

★「**文末**」の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

○　**一**人称→「　　　　」

○　**二**人称→「　　　　」

○　**三**人称→「　　　　」

※「**勧誘・適当**」の「む」の主語＝必ず「　　　　」になる。

※「　　　　」**の上の「む」**＝「　　　　」が多い。（例）翁の、孫を見むと思ひけむは理なり

※「こそ〜**め**」の「**め**」
「て**む**」の「**む**」
「な**む**」の「**む**」
＝「　　　　・　　　　」が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 「我もいかで、腰折れたらん雀見つけて、飼はん」と思ひて、…

② 海ならずたたへる水の底までもきよき心は月ぞ照らさむ

③ 人の上に立たむこと、月を越ゆべからず

④ 人のけはひすれば、たれならむと思ふほどに、…

⑤ かまどなどは、歌に詠まむには卑しき詞なれど、…

⑥ とくこそ試みさせ給はめ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「かかることにてこそあらめ。」の傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

1　世の人の思はんことも候ふなれば…
2　さあらんには、尊き僧たちの…
3　悩ませ給ふらんこそ心得られね。
4　名告りをせんほどのしるしはありなん。

問五　「心澄まさむ人は見ぬべきさまなる」の意味として、最も適当なものを、次のア～カの中から選べ。

ア　心を落ち着けようとする人は、きっと見るのがよい様子である
イ　心を落ち着けようとする人は、見なくてもよい様子である
ウ　心を落ち着かせている人は、きっと見るのがよい様子である
エ　心を落ち着かせている人は、見なくてもよい様子である
オ　心を落ち着かせた人は、きっと見るのがよい様子である
カ　心を落ち着かせた人は、見なくてもよい様子である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

じ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	じ	○	○	じ	じ	じ	○	無変化型

【意味】＝「　　」の打消

① 打消推量（～ないだろう）
② 打消意志（～ないつもりだ）

〈見分け方〉＝主語確認

○**一**人称 →「　　」
○それ以外→「　　」

問六　「これ程の事はよもあら<u>じ</u>とて…」の傍線部の意味として、最も適当と思わるものを、次の中から一つ選べ。

1 可能　2 自発　3 完了　4 受身　5 打消推量
6 意志　7 強意　8 過去　9 推量　10 現在推量

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　「まし」／「推定系の助動詞」／「希望系の助動詞」／「む・むず」／「じ」

①「思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く知らまし」の傍線部の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　人と別れるあわれを深く味わい知ることになるでしょう。
イ　人と別れるあわれを深く味わい知ることになっていたでしょう。
ウ　人と別れるあわれを深く味わい知ることができるでしょうが、今はそれもできません。
エ　人と別れるあわれを深く味わい知らないでしょうか、いえ深く味わい知ることになりました。

②「中将などはすきぬべかるめり」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　適当　イ　伝聞　ウ　完了　エ　反実仮想　オ　推定　カ　打消

③「まだしからむ人は、いと思ひよりがたくや。」の波線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　可能　イ　受身　ウ　完了　エ　使役
オ　尊敬　カ　自発　キ　婉曲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 「我が行ひを五つ、六つ重ねたらんほどに行ふ者ありけり。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　可能　　ウ　尊敬　　エ　打消
オ　存続　　カ　意志　　キ　婉曲　　ク　命令

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　「らむ・けむ」／「らむ」の識別／「べし・まじ」

らむ・けむ（＝「ら　・け　」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	らむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段型
形	けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段型

【意味】

〈違い〉＝「時制」

「らむ」＝「　　」

「けむ」＝「　　」

〈共通〉

① 推量（〜だろう）

② 原因推量（どうして〜だろう）

③ 伝聞（〜とかいう）

④ 婉曲（〜ような）

※共通の意味の上にそれぞれ時制を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　　」か「　　　」に分ける。

○「　　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」

○「　　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　　」の意味の見分け方

○ 見ている→「　　　」

○ 見ていない→「　　　」

※ 文中に、**「どうして〜」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　　」が多い。

〈例題一〉 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 涙さへなどとまらざるらむ

② 駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③ 人違へにてぞあるらむ。

④ 見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「さて都にも心安くておはすらんと思はば、…」の傍線部の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1 可能　2 自発　3 完了　4 受身　5 打消推量
6 意志　7 強意　8 過去　9 推量　10 現在推量

問二　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア 現在の推量　イ 過去の推量　ウ 適当　エ 可能
オ 断定　カ 伝聞推定　キ 完了　ケ 当然

問三　次の空欄A、Bには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［A］心の中のあはれに、…」
一つ橋危がりて帰り来たり［B］者のやうに、わびしくおぼゆ

A＝　　　　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「らむ」の識別

【識別対象】

1　「　　　　　」の助動詞「らむ」

2　「　　　　　」の助動詞「り」の「　　　　　」形＋推量の助動詞「む」

3　「〜ら」となる活用語の未然形＋推量の助動詞「む」

〈見分け方〉＝「　　　　　」の「　　　　　」

1　上が「　　　　」段＝現在推量「らむ」

2　上が「　　　　」段＝完了「り」＋推量「む」

3　上が「　　　　」段＝活用語の未然形＋推量「む」

※「はべらむ」や「けづらむ」などの例外にも注意！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕　次の傍線部の「らむ」の文法的説明として、最も適当なものを後の選択肢の中からそれぞれ選べ。

① 違ひはなからむと思ふなめれど、…

② 今はおはしぬらむとて、…

③ 何をかたてまつらむ。

④ 「〜思ひはべらむこと」とわびたまへば…

⑤ なほその境に至らで詠めらむは無念なりとて、…

ア　助動詞「らむ」

イ　助動詞「り」＋助動詞「む」

ウ　活用語の未然形の活用語尾＋助動詞「む」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　ア「侍るらむ」とイ「敷けらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

1　四段動詞＋助動詞
2　四段動詞＋助動詞＋助動詞
3　ラ変動詞＋助動詞
4　ラ変動詞＋助動詞＋助動詞
5　下二段動詞＋助動詞
6　下二段動詞＋助動詞＋助動詞

ア＝
イ＝

問五　「知らざらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形
2　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「む」の終止形
3　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「らむ」の連体形
4　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「らむ」の終止形
5　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋詠嘆の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「せんずらん」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ロ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ハ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ニ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ホ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

べし・まじ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	べし	**べく**	べく	べし	べき	べけれ	○	形容詞型
		べから	べかり	○	べかる	○	○	
	まじ	**まじく**	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○	形容詞型
		まじから	まじかり	○	まじかる	○	○	

【「べし」の意味】＝「スイカとめて」

① 推量（～だろう）
② 意志（～よう）
③ 可能（～できる）
④ 当然（当然～はずだ）
⑤ 命令（～せよ）
⑥ 適当（～するのがよい）

【「まじ」の意味】＝「　　　　　」の打消

① 打消推量（～ないだろう）
② 打消意志（～ないつもりだ）
③ 不可能（～できない）
④ 打消当然（～はずがない）
⑤ 禁止（～するな）
⑥ 不適当（～ないほうがよい）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈「べし」の意味の見分け方〉＝文脈判断。目安として**主語**確認。

○　**一**人称→「　　　　　」

○　**二**人称→「　　・　　」

○　**三**人称→「　　　　　」

※　**打消・反語**の文脈→「　　　　」

※　**比較・選択**の文脈→「　　　　」

（例）家の作りやうは、夏を旨とす**べし**。

※「**べき由**（よし）」の「べき」→「　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題三〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この人々の深き心ざしは、この海にも劣らざるべし。

② 東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

③ わが身は女なりとも、敵の手にはかかるまじ。

④ 藤波の咲き行く見ればほととぎす鳴くべき時に近づきにけり

⑤ 「人に聞かすな。人に漏らすまじ」と口固めけり。

⑥ 二条殿へきと参るべきよし、仰せごととて、…

問七　「この人にまさるべからず。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　受身　　2　可能　　3　尊敬　　4　打消

5　存続　　6　意志　　7　婉曲　　8　命令

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　「らむ・けむ」／「らむ」の識別／「べし・まじ」

①「語り申させたまひけめど、…」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　婉曲　イ　伝聞　ウ　過去の推量　エ　過去の詠嘆　オ　勧誘

②「戒（いまし）められむずらむ」を単語に分けた場合、どのような分け方になるか。最適なものを次の中から選べ。

ア　戒め／られ／むず／ら／む
イ　戒めら／れ／む／ず／らむ
ウ　戒め／られ／むず／らむ
エ　戒め／られ／む／ず／らむ

③「行幸などもやあらむずらむ」の解釈として最も適当なものを、次のア〜エから一つ選べ。

ア　行幸などでもあるのかなあ
イ　行幸などがあればいいなあ
ウ　行幸などあるはずがないなあ
エ　行幸などもあったよなあ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「いかが他の力を借る［Ⅰ］。」の空欄Ⅰには「べし」を活用させたものが入る。
（1）空欄に入れるのに最も適当な語形と、（2）その活用形の種類を、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

（1）ア　べし　　イ　べけれ　　ウ　べき　　エ　べく　　オ　べかる　　カ　べから　　キ　べかれ

（2）ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

（1）＝　　　（2）＝

⑤「便なくや候ふべからん」の文法的説明として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ア　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

イ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ウ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

エ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

オ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

2つの「なり」

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	なり（断定・存在）	なら	なり に	なり	なる	なれ	なれ	形容動詞型
	なり（伝聞・推定）	○	なり	なり	なる	なれ	○	ラ変型

〈「断定・存在」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

① 存在（～にある・～にいる）

※「　　」**（方角）**＋なり

② 断定（～である）

〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

① 伝聞（～とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

② 推定（～ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

② 舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③ 人々あまた声して来なり。

④ 親の為思はぬなり。

問一　「中ならん物はさながら取れ」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）

ロ　この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）

ハ　三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ヘ　物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな　（『和泉式部集』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「なり」の識別

【識別対象】

1「　　」の「なる」
2「　　」ナリ活用の活用語尾
3「　　」・**存在の助動詞**「なり」
4「　　・　　」**の助動詞**「なり」

〈見分け方〉＝「　　」

1「　　」と訳せる＝ラ行四段活用**動詞**「なる」
「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

2「　　・　　」＋なり＝**形容動詞**ナリ活用の活用語尾
「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

3「　　」か「　　形」＋なり＝**断定・存在の助動詞**「なり」

4「　　形」（ラ変型＝「　　形」）＋なり＝**伝聞・推定の助動詞**「なり」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の傍線の「なり」を、文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを後の中から選べ。

はかなく(1)なりし人の領ずる所にて、…
ある聖の物に(2)なりてと聞きしを、…
さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか(3)なり。
露消えし跡は野原と(4)なりはててありしにも似ず荒れはてにけり

A　①と②③④　　B　①②と③④　　C　①②③と④
D　①②④と③　　E　①③④と②

問三　次の傍線(1)・(2)の文法的な説明として、最も適当なものを後の中から選べ。＊(3)は不要。

「事悪しく(1)なりなんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人(2)なり。
聞き入れさせ給はざん(3)なりと承るを、…

A　ラ行四段動詞　　B　形容動詞語尾　　C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞　　E　推定の助動詞

(1)＝　　　(2)＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（応用編）

★ラ変型に付く「なり」

（例）あるなり

★ラ変型「**撥音便**」に付く「なり」

（例）あ なり ↓ [　　　]

※下枠参照

（　　）なり ↓「　　　」

様子 〜か なり

※

（例）①〜③の中で仲間外れは？

① 渡らせ給ふべかなり。

② いふもおろかなり。

③ いと罪重かなり。

※

な なり

な めり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**四段動詞**に付く「なり」

音声動詞＋なり→［　　　　］

（例）言ふ
泣く
鳴く
打つ
叩く
など

★「ばかり**なり**」
「～ば**なり**」
「かく**なり**」
「さ**なり**」
「しか**なり**」
の「**なり**」＝「　　　　」

★「**なり**けり」の「**なり**」＝「　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　**問一**の選択肢ニ・ホ（左記）の傍線部の意味をそれぞれ答えよ。

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり（『土佐日記』）

ニ＝　　　　ホ＝

問五　次の傍線部の「なり」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。（**問三**より）

聞き入れさせ給はざんなりと承るを、…

A　ラ行四段動詞

B　形容動詞語尾

C　断定の助動詞

D　伝聞の助動詞

E　推定の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　次の二重傍線部の助動詞「なり」のうち、一つだけ他と意味の異なるものを選べ。

ア　祈るなり　　イ　所なり　　ウ　あなれ　　エ　来たるなり　　オ　親なり

問七　次の傍線部a・bと文法的に最も近いものを、後の中からそれぞれ一つ選べ。

この里にすみふりし飛騨人（＝大工）なり[a]。
やや寒う　なり[b]はべるには、…

1　かたはらいたければ書かぬなり。
2　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
3　長押(なげし)の下(しも)に人々臥して答(いら)へすなり。
4　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
5　をかしき節もなくのみぞあなりし。

a＝　　　　b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ

ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり

ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな

ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん

ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問九　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ後の選択肢の中から選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり（A）」とぞ人言ふ なる（B）。

①　当然　②　伝聞　③　完了　④　回想

⑤　詠嘆　⑥　断定　⑦　婉曲　⑧　反実仮想

A＝　　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　次の傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、後の1～5の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。（一部省略）

1　太政大臣になりたまふ
2　容体ほそやかにあてなりければ
3　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
4　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
5　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　　イ　過去の推量　　ウ　適当　　エ　可能
オ　断定　　カ　伝聞推定　　キ　完了　　ケ　当然

②「しかしか、いと興ある事なり。」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　　イ　推定　　ウ　断定　　エ　伝聞　　オ　尊敬

③次のア〜オの波線のうち、伝聞の意味を表す助動詞を一つ選べ。

ア　須磨になりぬ。
イ　家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつつ、…
ウ　旅人の舟どもうかがふなる白波の寄り来る舟など繁しなど…
エ　慌しく急ぎ過ぐるなるべし。
オ　緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も）

★「係り結びの法則」

○ぞ・なむ・や・か→「　　　　」形

○こそ　　　　→「　　　　」形

＊「結びの語」＝係助詞の上を確認→「　　　　」or「　　　　」の部分

その部分が複数の単語で構成されている場合は、品詞分解をして活用する「　　　　」の**一単語**のみ。

（例）これやわが求むる山ならむ。

【例題一】傍線部の係助詞に対応する結びの語を抜き出し、その終止形を書け。

① さることやありし。

② ことば多からぬこそ、飽かず向かはまほしけれ。

③ 心なむまさりたりける。

④ 花こそ咲けれ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「『も』の字」とは何助詞か。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　間投助詞　　ウ　係助詞　　エ　接続助詞　　オ　副助詞

問二　「誘はれざりけるこそ、口惜し［A］」の空欄Aに入る最も適切な語を、次の中から一つ選べ。

ア　からむ　　イ　らむ　　ウ　けれ　　エ　なむ　　オ　べし

★**「意味」**

○ぞ・なむ・こそ→「　　　　」※訳出不要

○や・か→「　　　・　　　」

※　後ろに答えが**有**＝「　　　」

　　　〃　　　**無**＝「　　　」

※「　　　・　　　」＝**反語**が多い。

※「～　　　。」・「～　　　。」＝**反語**。（**和歌**で多用）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「仰せらるるぞ」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

①　ラ行下二段活用動詞の連体形＋強意の係助詞
②　ラ行下二段活用動詞の連用形＋詠嘆の係助詞
③　ラ行四段活用動詞の連用形＋強調の係助詞
④　ラ行四段活用動詞の連体形＋禁止の終助詞
⑤　ラ行四段活用動詞の連用形＋断定の終助詞

問四　「いづこの御いらへかはあらむ」の現代語訳として正しいものを次の中から選べ。

1　どのように御返事申し上げようか
2　どなたに御返事したらよいか
3　もちろん御返事などあるわけがない
4　どうしてこんな御返事をなさるのだろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「結びの省略」**＝係助詞の「　　」の**一文字**確認

○**に**＋{ぞ／なむ}、。→「　　　　」を補う

○**に**＋{や／か}、。→「　　　　」を補う

○**に**＋こそ、。→「　　・　　」を補う

○**と**＋係助詞、。→「（　　）・（　　　）」を補う

★**「結びの流れ（消失・消滅）」**　本来結びとなる語に、接続助詞などが付いて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）たとひ耳鼻**こそ**切れ失すとも、命ばかりはなどて生きざらむ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　　イ　あらん　　ウ　参らばや　　エ　あらじ　　オ　多かりし

問六　次の各傍線部「こそ」の説明として、最も適当と思われるものを、後の中からそれぞれ選べ。

「よろづのこと、さまに従ひて こそ[1] めやすけれ。〈中略〉御声 こそ[2] 惜しみ給ふとも、少しけ近くだに こそ[3]」などいさめ聞こえ給へど…

イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
ロ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として逆接的に下に続く。
ハ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として反語の表現となる。
ニ　係りに対して結びが流れ、強調文として終止する。
ホ　係りに対して結びが流れ、強調文として逆接的に下に続く。
ヘ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。
ト　係りだけで、その部分を強調提示する。
チ　係りだけで、言外に逆接的な意味を暗示する。

1＝　　2＝　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「逆接強調法」

「文中」の「こそ…已然形、～」**↓** 訳出の時に「…　　　　、～」などの「　　　　」を補う。

★「危惧の用法」

○もぞ
○もこそ
＝「～したら　　　　・　　　　」と訳す。

問七「殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ、ただひとところ帰りたまふに、…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

1　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるので
2　屋敷の中までも人を大勢連れてお歩きになれば
3　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きにならなければ
4　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに
5　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きください

問八「風邪などもこそ引かせ給へ」を「もこそ」の意味に注意して現代語訳せよ。　※給ふ＝「～なさる」と訳す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

間投助詞（や・よ・を・こそ）

★「こそ」の意味

①　呼びかけ（〜さん）

「人物こそ。」

★「や」・「よ」・「を」の意味

①　詠嘆（〜なあ）

②　強調（訳出不要）

③　呼びかけ（〜よ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★「の」の用法

① **主格**（＝〜　　　）

体言の…用言

② **連体（修飾）格**（＝〜　　　）

体言の…体言

③ **同格**（＝〜　　　）

体言の……［　　　形］〜〜〜。

（例）白き花**の**小さきあり。

④ **準体格**（＝〜　　　）

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　）

○「　　　」中の「の」で「〜　　　　　」と訳せる。

○「　　　」の「の」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

※同格の「が」

連体形 **が**…… 連体形 ～～～。 → 各 連体形 の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあら ぬ **が**、すぐれて時めき 給ふ ありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕 次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢の中から選べ。

① いかなれば四条大納言のはめでたく、兼久がはわろかるべきぞ。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。
④ 月のおもしろかりける夜、みそかに御息所たちの御曹司どもを見歩かせたまひけり。
⑤ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問九 次の傍線部と文法的意味が同じものを、後の中から選べ。

いみじう若うをかしげなる男の、烏帽子・直衣なるが、物も覚えず泣き惑ふさま、…

イ　頭白き女の水汲めるなむ、前よりあやしきやうなる家にいりける
ロ　世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
ハ　そこらの人の誹り、恨みをも、はばからせ給はず

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　次の傍線部の「の」の用法を、後の中からそれぞれ選べ（同じ記号を何度用いてもよい）。

① 怪（け）と人の申すことどもの、…
② 前（さき）の一条院の御即位の日、…
③ 髪つきたるものの頭（かしら）の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…
④ かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「して」の重要な3つの訳

① 手段（＝〜　　　）

② 共同（＝〜　　　）

③ 使役の対象（＝〜　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〔例題三〕 次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢から選べ。

① 御使ひして申させ給ふ。

② 長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③ むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

①＝　　②＝　　③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「より」の重要な3つの訳

①　経由（＝〜　　　　　　）

　　起点（＝〜から）で訳せた時、注意！

（例）木の間より洩り来る月の影

②　即時（＝〜　　　　　　）

「　　　　」形＋より→「即時」から考える。

（例）名を聞くより、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③　手段・方法（＝〜　　　　　　）

「　　　手段」が多い。

※「　　　　　　」（＝徒歩で）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「にて」の用法

① 場所・時間
② 時刻・年齢
③ 手段・方法
④ 原因・理由
⑤ **資格・状態（〜として・〜で）**

（例）ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなることこと。

※「にて」の識別

「〜であって」＝「〜であって」→断定「なり」㋮+接続助詞「て」

体言／連体形 ＋にて ＝「〜であって」→格助詞「にて」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

①「その夜は起きあがるべきかは。」の傍線部の文法的な意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　詠嘆　イ　婉曲　ウ　疑問　エ　強調　オ　反語

②「左衛門の陣などの方にや」の後に補う言葉として最適なものを次の中から選べ。

ア　ありけむ　イ　ありけめ　ウ　あるべし　エ　あれ

③「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて…」の傍線の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　あらめ　イ　あはれめ　ウ　つつめ　エ　ながめ　オ　ならめ

④「人にもこそ会へ」の解釈として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夫にぜひとも会おう　イ　人に会ってはまずい
ウ　夫に会えればかまわない　エ　人に会って来なさい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の二重傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次のア〜エの傍線を施した「の」のうちから一つ選べ。

ア　この姫君ののたまふこと
イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、
ウ　箱の虫どもを取らせ、
エ　よろづのもとどもをたづねて、

⑥　次の傍線部ア〜エの「の」のうち、用法が他と違うものを一つ選べ。

林の中（ア）の丘だちたるやうなる所にて逍遥（せうえう）したまふ。叟（そう）〔＝老人〕の（イ）帽子したるが、舟を葦（あし）につなぎ陸（くが）にのぼり、杖をつきて、琴の調べの終はるを聞く。
この（ウ）琴弾きたまふは誰ぞ。
「ただ国の（エ）賢き人として政（まつりごと）をし、悪（あ）しき事を直したまふ賢人（かしこびと）なり」と答ふ。

⑦　「徒歩よりまうでけり。」の傍線部と同じ用法のものを次の中から選べ。

ア　神代より　吉野の宮に　あり通ひ
イ　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに
ウ　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ
エ　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★「ば」の用法＝「　　接」

○「　　」形＋ば＝　　条件
（　　〜　　）

○「　　」形＋ば＝　　条件
- 原因・理由＝（　　・　　）
- 偶然　　　＝（　　・　　）
- 恒常　　　＝（　　）

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

イ　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
ロ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ハ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ニ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ホ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部「ば」と意味用法が同じものを次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　」形＋とも＝　　条件
（　　～　　）

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　」形＋ど・ども＝　　条件

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
2　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
3　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
4　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
5　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問四　次の二重空欄A・Bには接続助詞が入る。A・Bをうめる組合せとして最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［A］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［B］、鐘の声を聞こしめして、…」

1　ども・ば
2　ば・ども
3　ども・とも
4　ば・とも
5　とも・ば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「て」の用法＝単純接続

「　　　」形＋て

★「で」の用法＝「　　　　　」接続

「　　　」形＋で
（～　　　　　）

問五　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて
イ　見せられて
ウ　見えず
エ　見せないで
オ　見えて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「つつ」の用法**＝①反復（〜ては）　②継続（〜し続けて）

「　　　」形＋つつ

問六　「物入れつ、参らするを」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　何か物を入れては差し上げていますのに
ロ　何か物を入れて召し上がっていますのに
ハ　何か物を入れながら参上なさいますのに
ニ　何か物をお入れしながら伺わせますのに
ホ　何か物をお入れ申し上げなさいますのに

★**「に」・「を」の用法**＝①順接（〜ので・から）　②逆接（〜のに・けれど）　③単純接続（〜ところ・と）

「　　　」形＋に・を

★**「ながら」の用法**＝①逆接（**〜のに**）　②同時（**〜ながら**）　③**そのまま**　④**全部、〜中**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の訳を、後の選択肢の中から選べ。

①　身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

②　すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③　涙にむせびながら申すやう…

④　「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　～のに　　イ　～ながら　　ウ　～のまま　　エ　全部、～中

★**もの系〈＝ものの・ものから・ものゆゑ・ものを〉＝「　　接」**

「　　」形＋もの系

＊「ものの」以外は順接の働きもある。

＊「ものを」＝文末にあれば、詠嘆の終助詞として「～**のになあ**」と訳す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「て」の識別

【識別対象】

1　接続助詞「て」
2　完了の助動詞「つ」の「　　　」形か「　　　」形

〈見分け方〉＝「　　　」に「　　　」**が有るか無い**かを確認。
（＊上〈＝接続〉はどちらも連用形）

1　「　　」＝接続助詞「て」
2　「　　」＝完了の助動詞「つ」
※例外　「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「　　　　」

問七　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞＋助動詞＋助動詞
2　動詞＋助動詞＋助詞
3　動詞＋助詞＋助動詞
4　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
5　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞
6　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　）
すら	
さへ	添加（〜　　）

★「類推」の構文

A　（サエ）だに／すら　B

「　　（　　　）」

C　はなおさら　［　　　］

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※**「だに」**には**限定用法**（＝　　　　〜　　　　）もある。

〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　　　」を見る。

限定用法 → **だに**＋〜「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」

問八　「跡をだに形見に見むと思ひしを…」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

A　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
B　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
C　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
D　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
E　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

★**「し」の用法**＝「　　　　」

①「**し**　　　　」・「**し**　　　　」
②「A**し**Bば」
③「Vと**し**V」　※同じV

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「し」の識別

【識別対象】

1　サ変動詞「　　」の「　　　　」形
2　過去の助動詞「　　」の「　　　　」形
3　「　　　」の副助詞「し」

〈見分け方〉

1　「　　　　」と訳せる＝サ変動詞
2　「　　　　」形＋**し**＝過去の助動詞「き」
3　「し」を省いても文意が通じる。＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照。

問九　「日ごろより聞きおよびしゆゑに、…」の傍線部と文法的に同じものはどれか。次の中から一つ選べ。

イ　そのむくいをほどこしたまふなり。
ロ　外の事を聞き入れずして、…
ハ　成人してのちに、はたして令尹といふ官人になれり。
ニ　駿馬をうしなはれし時、…
ホ　照名とてあきらかなる名があらはれて、天下にかくれなし。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

① 次のア～オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを一つ選べ。

ア　のたまはすれば　イ　明けぬれば　ウ　近ければ　エ　あらば　オ　聞こゆれば

② 「ものも言ふで帰りぬ。」の「言ふ」の活用形として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　言は　イ　言ひ　ウ　言ふ　エ　言へ

③ 「見てけりとだに知られんとおもひて書きつく。」の傍線部の解釈として最も適切なものを一つ選べ。

ア　私が見たのかどうかと不安を感じさせよう
イ　私が見たことを知らせて後悔させよう
ウ　私がたしかに見たことだけは悟らせよう
エ　私が見たかもしれないと思わせておこう

④ 「生き給ひたりし時、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　接続助詞の一部　イ　副助詞　ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　形容詞の活用語尾の一部　オ　サ行変格活用動詞の連用形　カ　サ行四段活用動詞の連用形活用語尾

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　「終助詞」／「ばや」の識別／「なむ」の識別／「呼応の副詞」

終助詞

【　　　】ばや・てしがな・にしがな／なむ／もが・もがな・がな
【　　　】かし
【　　　】そ・な
【　　　】かも・かな・か・も・な・や

★「願望」

〈　　　願望〉＝〜たい

「　　　」形＋ばや

「　　　」形＋{てしがな／にしがな}

〈　　　願望（＝あつらえ）〉＝〜てほしい

「　　　」形＋なむ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈状態願望〉　＝〜があればなあ・〜がいればなあ・〜であればなあ

種々の語＋{もが／**もがな**／がな}

問一　「初音の勝負をし侍らばや。」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　この御所では初めてだが、「郭公」という曲で楽の音を競う勝負をしてはどうだろう。
イ　どちらが先に、今年初めての郭公の鳴き声を聞くか、勝負をしたいものでございます。
ウ　院御所では今春初めて、「郭公」を題とする朗詠の勝負をするとお聞きしましたが。
エ　北山殿にて、この夏初めての郭公の鳴きまね勝負をするべきではないでしょうか。
オ　誰が初めに郭公を鳴かせることができるか、勝負をするよう、お命じになってはいかがですか。

問二　「迷はざらなむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　迷わないだろう
2　迷うはずはない
3　迷うことであろう
4　迷うことがあろうか
5　迷わないでもらいたい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★念押し＝「　　・　　」

※「**ぞかし**」（＝〜だよ・〜だね）の形

★禁止＝〜するな

※「　　」〜**そ**（＝〜してくれるな）

問三　「もの知らぬこと［x］のたまひ［y］」が禁止を意味するように、［x］と［y］に適切なひらがなを一字ずつ書け。

x＝　　y＝

問四　次の傍線部の助詞の種類を、後の中から選べ（同じ記号を何度使ってもかまいません）。

「諸国の観音にも参詣せ ばや[a]と存ずるなり。」
両人いろいろとどむれ ども[b]、なかなか止まるべきにあらざれば、…
「ここに[c]のみゐたらむより、主人をあまた取りかへて仇を尋ねよ かし[d]」

ア　格助詞　　イ　接続助詞　　ウ　係助詞　　エ　副助詞　　オ　終助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ばや」の識別

【識別対象】

1　「　　　　」の終助詞「ばや」
2　接続助詞「ば」＋係助詞「や」

〈見分け方〉

1　「　　　　」形＋ばや（　　　　）＝自己願望の終助詞「ばや」
2　「　　　　」形＋ば や（　　　　）＝接続助詞「ば」**仮定**条件＋係助詞「や」
3　「　　　　」形＋ば や＝接続助詞「ば」**確定**条件＋係助詞「や」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを後の中から選べ。

① 久方の月の桂も秋はなほもみぢすればや照りまさるらむ

② いましばしもあらばやと思へど、明くれば、ののしりて出だし立つ。

③ 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

ア　自己願望の終助詞
イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞
ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞

①＝　　②＝　　③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「なむ」の識別

【識別対象】

1　「　　　」の終助詞「なむ」
2　「　　　」の助動詞「ぬ」の「　　　」形＋推量の助動詞「む」
3　ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4　「　　　」の係助詞「なむ」

〈見分け方〉＝「　　　」

1　「　　　」形＋なむ＝他者願望（＝あつらえ）の終助詞「なむ」
2　「　　　」形＋㋤㋰＝完了・「　　　」の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」
3　「　　　な㋰」・「　　　な㋰」・「　　　な㋰」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4　1〜3以外＝強意の係助詞「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「我、人に劣りなむや」の傍線部の文法的な説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　係助詞
イ　終助詞
ウ　副助詞
エ　完了の助動詞＋推量の助動詞
オ　断定の助動詞＋推量の助動詞

問六　次の傍線部イ〜ハの文法的説明として最も適切なものを、後の中からそれぞれ選べ。

「いざ なん（イ）、聖のある、おそろしきに」
「日比（ごろ）、見でや止み（や） なんと（ロ）心うかりつるを、…」
「おとなになり なん（ハ）時は御門の后（きさき）にも奉り、…」

①　動詞　　②　動詞の一部＋助動詞
③　助動詞　　④　助動詞の一部
⑤　助動詞＋助動詞　　⑥　副詞
⑦　係助詞　　⑧　終助詞

イ＝　　ロ＝　　ハ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化（ふか）してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

問八　「さることはありなむや、隠いたまひてけむ」の現代語訳として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　そういうことであってほしい、お隠しになっただろうか
イ　そんなことがあるだろうか、お隠しになったのだ
ウ　そういうことであってほしい、きっとお隠しになっただろう
エ　そんなことがあるだろうか、きっとお隠しになっただろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★注意すべき「なむ」

○「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

○「しなむ」の場合

「し」が「　　　　」と訳せる＝サ変「す」連用形→「　　　　」

「し」が「　　　　」の意味→ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量

○「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

連用形
〜
〜
〜

＋ **なむ** ＝ **係助詞**

○「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

呼応（陳述）の副詞

★禁止

「　」〜**そ**＝〜するな（〜してくれるな）

- 「　　」
- かまへて
- あなかしこ

〜

- そ
- **な**
- べからず

＝決して〜するな

★不可能

「　」〜打消＝〜できない

★その他の打消系統

「　」知ら**ず**＝さあ、どうだかわからない

「　」〜「　」＝まさか〜ないだろう

★全否定

- 「　　」
- 「　　」
- 「　　」
- 「　　」
- おほかた
- たえて
- つやつや
- かけて
- あへて

〜打消＝

- 全く〜ない
- 全然〜ない
- 決して〜ない

★弱い否定

- **いと**
- **いたく**

〜打消＝**たいして**〜ない

「　」〜打消＝

- めったに〜ない
- ほとんど〜ない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　「花ならばしばし［　　］散りそ木の下を」の空欄には、ひらがな一字が入る。最も適切な語を記せ。

問十　下の打ち消しの語と呼応して不可能の意味を表す副詞の言葉として、最適なものを次の中から選べ。

1　さらに　　2　よも　　3　な　　4　え

問十一　「さらにそのほかのものも食はずありければ、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ますます　　イ　まったく　　ウ　たいてい　　エ　ふつうは　　オ　ほとんど

問十二　「さらにえ見いでず」の語句の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　ますます見つからなくなってしまった
2　まったく見つけ出すことができなかった
3　もう世話をする気持ちも失せてしまった
4　あれ以上に良いものはもう見出せなかった

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十三　「えせぬ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　できないことが　　イ　仕方ないが
ウ　もうけもなくて　　エ　難しそうで

問十四　「しばし、みななつかはしそ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

イ　しばらくの間、すべてでなくてもお与えください
ロ　しばらくの間、全部は差し上げないでおきましょう
ハ　しばらくの間、みんな送り返してしまいましょう
ニ　待ってください、すべてお与えしてはいけません
ホ　待ってください、みんな差し上げてもかまいません
ヘ　待ってください、全部お返しにならないでください

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「その他」

○**いかで（か）**〜
- 推量＝**【疑問】**「どうして〜だろう」／**【反語】**「どうして〜だろうか、いや、〜でない」
- **願望・意志**＝「　〜したい・しよう」

○**いつしか**〜**願望**＝「　〜したい・してほしい」

○かまへて〜
- 禁止＝「　〜するな」
- 命令・意志＝「　〜せよ・しよう」

○はやく〜けり＝「なんと実は〜だったよ」

問十五　「いつしか梅咲かなむ」の「いつしか」の意味として適切なものを次の中から選べ。

1　いつの間にか　　2　はやく　　3　もはや　　4　いったいいつか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　「終助詞」／「ばや」の識別／「なむ」の識別／「呼応の副詞」

①　「人はよきほどのしまひあらばや。」の傍線部の用法としてふさわしいものを、次の中から一つ選べ。

ア　疑問を表す　イ　意志を表す　ウ　推量を表す　エ　願望を表す　オ　勧誘を表す

②　「ひとことなおとし［A］」の空欄Aには、禁止の意味を表す終助詞が入る。最も適切なものを次から選べ。

ア　ばや　イ　そ　ウ　なむ　エ　かし　オ　ぞ

③　「集などにも入りなむ。」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　係助詞　イ　終助詞　ウ　動詞の一部＋推量の助動詞　エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

④　「〜よきは短くてあらなん。」の二重傍線部「なん」の文法的解説として、最も適切なものを次から選べ。

ア　詠嘆の終助詞　イ　ナ変動詞＋推量の助動詞

ウ　他者願望の終助詞　エ　強意の係助詞

オ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「良かりなむ」とあるが、その文法的説明として最も適当なものを左の中から選べ。

ア　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」
イ　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」
ウ　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」
エ　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形
オ　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

⑥「さらにえ見いでず」を現代語に訳すとどうなるか。次のア〜オのうちから最適なものを一つ選べ。

ア　まったく見つけられない
イ　いまさら見つけることができようか
ウ　どうしても見つけなければならない
エ　いっそう見つけようと努力した
オ　ことさら見るのも嫌である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

「に」の識別

【識別対象】

1　**形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2　**ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3　**完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4　**断定の助動詞「なり」**の連用形
5　**格助詞**の「に」
6　**接続助詞**の「に」
7　**副詞・副助詞**の一部　→　「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　」**→**「　　」

1　「　・　」＋に＝**形容動詞**

「　」「　」「　」＋**に**　の形が多い。

2　（　　　）**にの**「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3　「　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋（　　　）の形が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　「　　　」＋に

断定の助動詞　※左記「断定」参照

格助詞　（「である」と訳せない）

※**断定**

○**に**

○**に**＋（助詞）＋

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5「　　」形＋に
- **断定**の助動詞 → 4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※格助詞

連体形＋に　述部

※接続助詞

連体形＋に‖、〜

⇒ 「　　」「　　」「　　」で訳せる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「この事も果てにしむつかしさに…」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　副詞の一部
オ　接続助詞　　カ　形容動詞の連用形活用語尾

問二　「思へるにや。」に含まれる助動詞「る」「に」の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　「る」は自発、「に」は完了　　2　「る」は自発、「に」は断定
3　「る」は受身、「に」は完了　　4　「る」は受身、「に」は断定
5　「る」は存続、「に」は完了　　6　「る」は存続、「に」は断定

問三　次の二重傍線部a・b「に」の文法的説明として、最適なものを後の中から選べ。

「元の帯にはあらねども、むなしく失ひて…」
「手をすりて、とりてまかりにけり。」

1　断定の助動詞の連用形　　2　接続助詞　　3　格助詞　　4　動詞の連用形活用語尾
5　完了の助動詞の連用形　　6　形容動詞の連用形活用語尾　　7　副詞の一部

a＝　　b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　次のa～eの「に」の説明として、最も適当と思われるものを、後のア～オからそれぞれ選べ。

「この所を見るに[a]、憂き世ながらかかる所もありけりと、～」
「ここかしこに[b]鈴の音などを聞くにつけても、～」
「雲居遥かに[c]心を送るしるべとぞなりにける。」
「思ひしづむる時なきにも[d]あらねば、～」
「なほ思ひ慣れにし[e]夕暮れの眺めにうち添ひて、～」

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　単純な接続を表す接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　場所を表す格助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問五　「みな乱世にてはべれば、わろき事にてのみあらんずるをはばかりて、…」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

1　年にそへ日にそへては、…
2　道理もあはれにおぼえて…
3　すでに残り少なく、…
4　人も申し置かぬにやと、…
5　衰へにたることわり、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【識別総合練習問題】

問六　次の傍線部ａ〜ｆについて、文法的に正しい組み合わせを後の中から一つ選べ。

人がらなりければ[a]にや、…
女はえ詠ま[b]ぬにや、
なかなか[c]に、半ばなる月を見る心地するに、…
この花やがてにほは[d]なむ。
皇子出で給ひ[e]ぬれば、…
見ずなり[f]なむこそあはれなれと、…

イ　ａ「に」とｃ「に」が同じ。
ロ　ｂ「ぬ」とｄ「な」が同じ。
ハ　ｂ「ぬ」とｅ「ぬれ」が同じ。
ニ　ｄ「な」とｆ「な」が同じ。
ホ　ｅ「ぬれ」とｆ「な」が同じ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

敬語 (1)

★敬語の種類＝「　　」語・「　　」語・「　　」語

★本動詞と補助動詞

○**補助動詞**の型

①「　　」＋**V**

（例）書き**奉る**

※形容詞・形容動詞＋**V**のVは、「あり」の意味の動詞

※用言＋助動詞＋**V**もある。

（例）書かせ**給ふ**

②「　　」＋「　　」＋**V**

（例）書きて**侍り**

③「　　」＋「　　（　　）」＋

「　　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

（例）女房に（て）**候ふ**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★それぞれの種類の補助動詞と訳

○

＝

給ふ（　　　）
おはす
おはします

（訳）「～　　」・「　～　　」

○

＝

奉る
申す
聞こゆ
参らす
給ふ（　　　）

（訳）「（お）～（し）　　」・「　～　　」

○

＝

侍り
候ふ

（訳）「～　　」・「～　　」・「～　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　「心地し①はべるに、…」「～いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部①～③の敬語の種類を、それぞれ次の中から選べ。

a　尊敬語
b　謙譲語
c　丁寧語

①＝

②＝

③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

① 「思ひなしにや、〜」の二重傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

ア　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず
イ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
ウ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ
エ　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし
オ　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり

② 「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものを、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

③ 次のア〜オの二重傍線部の中から、一つだけ文法的に異なるものを選べ。

ア　「〜御心も通ひぬべきを…」
イ　「〜老人御方に入りたまひにけり。」
ウ　「今宵この人々にや食はれなんと思ふも…」
エ　「男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。」
オ　「中将、言ひわづらひて帰りにければ、…」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　「敬語」(2)

★**補助動詞　二つの「給ふ」**

「　　」語＝四段　は　ひ　ふ　ふ　へ　へ

「　　」語＝下二段　へ　へ　（ふ）　ふる　ふれ　（へよ）

※終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

○「給へ」の場合→「　　」（＝活用形）確認。

（例）思ひ給へず

○「**謙譲**語の給ふ」の特徴

①「　　」・「　　」で使用。

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

③主語は「　　」。

④訳は「～　　」・（「～　　」）

⑤敬意の方向＝**聞き手**に対する敬意

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の傍線部①～④の「たまへ」のうち、敬語の種類の異なるものが一つだけある。その番号を答えなさい。

「～なほたち返り紅葉もいかにと思ひ①たまへてなむ。旅寝もしつべき木のもとにこそ」とて、見出だし②たまへり。

〈中略〉「さま変り③たまへらんさまを、いささか見せよ」と、少将の尼にのたまふ。「それをだに、契りししるしにせよ」と責め④たまへば、…

問二　「まかり出でて見給へむと思ひ給へしに、年はまかり老いにたり、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　（陽成院が）御覧になると思いましたが
2　（陽成院が）御覧になるはずがないと思いましたので
3　拝見しようと思いましたが
4　見るのを諦めようと思ったのですが
5　孫が姿を現すのを期待していたのですが

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★本動詞

○覚えておくべき**尊敬語**　　※**太字**の敬語動詞は**最高敬語**

敬語動詞	訳	通常語
あそばす	なさる	す
います	いらっしゃる	あり・居り・行く・来
いまそがり		
おはす		
おはします		
ます		
まします		
仰す	おっしゃる	言ふ
のたまふ		
のたまはす		
思す	お思いになる	思ふ
思ほす		
思しめす		
大殿ごもる	おやすみになる	寝
聞こす	お聞きになる	聞く
聞こしめす		

敬語動詞	訳	通常語
御覧ず	ご覧になる	見る
給ふ	お与えになる	与ふ
たぶ		
たまはす		
しろしめす	お治めになる	治む
	知っていらっしゃる	知る
召す（※食(を)す）	御覧になる	見る
	※お治めになる	治む
	お呼びになる	呼ぶ
	※召しあがる	食ふ・飲む
	※お召しになる	着る
	お乗りになる	乗る
参る　奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○覚えておくべき**謙譲語**

敬語動詞	訳	通常語
承る	うかがう	聞く
聞こゆ	申し上げる	言ふ
聞こえさす		
申す		
奏す	**天皇・上皇に**申し上げる	
啓す	**中宮・東宮に**申し上げる	
奉る	差し上げる	与ふ
参る		
参らす		
賜(たまは)る	いただく	受く
参る	参上する	行く・来
まうづ		
まかる	退出する	行く・来
まかづ		

敬語動詞	訳	通常語
つかまつる	お仕えする	仕ふ
つかうまつる		
侍り		
候ふ		

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り	あります・おります	あり・居り
候ふ		

問三　「いますかり」の文法上の説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　尊敬の助動詞　　2　謙譲の助動詞　　3　丁寧の助動詞
4　尊敬の動詞　　5　謙譲の動詞　　6　丁寧の動詞

問四　「あな苦しと思して、…」の傍線部のよみがなを記せ。

問五　「とどめ奉り（ア）」「思し（イ）」は、それぞれどの種類の敬語か。最も適当と思われるものを、それぞれ次の中から選べ。

1　尊敬語　　2　謙譲語　　3　丁寧語

ア＝　　イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「大殿籠るとて、…」の傍線部の現代語訳を七字以内で記せ。

問七　「天道もこれをぞ恵み給ふらん」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次のア～オの中から一つ選べ。

ア　名詞＋尊敬の四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形
イ　名詞＋謙譲の下二段活用動詞の終止形＋現在推量の助動詞の終止形
ウ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の終止形
エ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋現在推量の助動詞の連体形
オ　マ行四段活用動詞の連用形＋謙譲の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★『2種類ある敬語本動詞』

○「覚えておくべき**尊敬語**」

敬語動詞	訳	通常語
参る・奉る	お召しになる	着る
参る・奉る	召しあがる	食ふ・飲む
参る・奉る	お乗りになる	乗る

○「覚えておくべき**謙譲語**」

敬語動詞	訳	通常語
奉る（参る）	差し上げる（参上する）	与ふ（行く・来）
侍り・候ふ	お仕えする	仕ふ

○「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り・候ふ	あります・おります	あり・居り

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「奉る」と「参る」→「　　」か「　　」。

「　　」
- 「　　」お召しになる
- 「　　」召しあがる
- 「　　」お乗りになる

「　　」＝「　　」「　　（「参る」のみ）」

〈例題一〉　次の傍線部を現代語訳せよ。

①　簾すこしあげて、花奉るめり。

②　右大弁の子のやうに思はせて率て奉る。

③　ほかにて酒など参り、酔ひて…。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「侍り」と「候ふ」→「　　」か「　　」。

「　」＝あります・おります

「　」＝「　　」

※ 貴人に／貴人がいる場所に ＋ 侍り／候ふ ＝「　　」の本動詞

問八　次の傍線部「侍りて」の意味として最適なものを、後のア～オから選べ。

「*1悦は、*2近衛殿（このゑどの）（応山公）に<u>侍りて</u>、筆法を学び奉りけり。」

*1　悦＝本阿弥光悦（こうえつ）。安土桃山時代から江戸時代初期の書家・工芸家。

*2　近衛殿＝江戸時代初期の公家・近衛信尋（のぶひろ）。後陽成（ごようぜい）天皇の皇子で、近衛家を継ぎ関白となる。優れた書を残す。

ア　取り入って　　イ　警護を任されて　　ウ　気に入られて

エ　お仕えして　　オ　期待されて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★敬意の方向

●「誰から」→敬語の「　　　　」確認。

○地の文＝「　　　　」から。

○会話文＝「　　　　」から。

●「誰へ」→敬語の「　　　　」確認。

○　**尊敬語**＝　**主体**（〜　　・　　）へ

○　**謙譲語**＝　**客体**（〜　　・　　）へ

○　**丁寧語**→敬語の「　　　　」確認。

地の文＝「　　　　」へ
会話文＝「　　　　」へ

★敬語の重なる順番＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　「かの人（＝玉鬘（たまかづら））を、いとめでたし劣らじと見たてまつりしかど、…」の波線部は誰に対する敬意か、答えよ。

問十　次のａ・ｂは誰に対する敬意を表しているか答えよ。

「蔵人の少将が、まづ召す(a)」と言ふめれば、…

（蔵人の少将が）三の君に「これ（＝手紙）見給へ。惟成が落としたりつるぞ」とて奉り(b)給ふ。

ａ＝　　　　　　　ｂ＝

問十一　次の傍線部の説明として最も適当なものを後の中から選べ。

世の中もひさしく見てはべれば、昔より移りまかる道理もあはれにおぼえて、神の御代は知らず、人代となりて神武天皇の御後、百王と聞ゆる、…（以下略）

1　神への敬意を表す謙譲語　　　　2　神への敬意を表す丁寧語
3　神武天皇への敬意を表す謙譲語　4　神武天皇への敬意を表す丁寧語
5　読者への敬意を表す謙譲語　　　6　読者への敬意を表す丁寧語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十二　次の文は、「奏せよ」について説明したものである。空欄［Ⅰ］～［Ⅲ］に入れるのに適当な語を、それぞれ後の語群から選べ。

「奏せよ」はサ変動詞「奏す」の［Ⅰ］で、「奏す」は「言ふ」の［Ⅱ］である。またこの語は［Ⅲ］または上皇・法皇に対する敬意を表す語である。

Ⅰ　ア　終止形　　イ　已然形　　ウ　命令形

Ⅱ　ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

Ⅲ　ア　天皇　　イ　皇后　　ウ　皇太子

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講「敬語」(2)

① 次の傍線部a、bの敬語の種類をそれぞれ後の中から選べ。

「心もとながり 聞こえさせ給へれど、…」（a：聞こえ）
「いまはと 思しなしたる御心…」（b：思しなし）

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

a＝　　　　b＝

② 次の傍線部a・bの説明として最も適当なものを、後の中からそれぞれ一つ選べ。

「いとありがたく 侍りけれ。」（a：侍り）
「よき歌 つかうまつれ」とおほせらるる（b：つかうまつれ）

ア　尊敬の本動詞　　イ　謙譲の本動詞　　ウ　丁寧の補助動詞
エ　丁寧の本動詞　　オ　謙譲の補助動詞

a＝　　　　b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③ 次の「たまふ」に関する説明文の空欄 A 〜 F に入る最も適当なものを、それぞれ後のア〜カの中から選びなさい（同じ記号を何度使ってもかまいません）。

「たまふ」は、四段活用の場合は A の意味で、下二段活用の場合は B の意味となる。四段活用の場合は動詞としても C としても自由に用い、地の文、 D ともに無関係に用いる。下二段活用の場合は多くは「思ふ」「見る」「聞く」に続く E としての用法にほぼ限られ、 F に集中して用いられる。

ア 謙譲　イ 尊敬　ウ 補助動詞　エ 会話文　オ 地の文　カ 助動詞

A＝　B＝　C＝　D＝　E＝　F＝

④ 「不覚におほとのごもりぬ。」の現代語訳として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア 不意にお隠れになった
イ 正体なくお眠りになった
ウ なかなか寝つけなかった
エ 気づかずにお帰りになった
オ 突然意識をお失いになった

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　次の波線部a〜cの敬語の種類を後の中からそれぞれ選べ。

「堀川にaおはしますが、明日、陸奥へ御下りb候ふが、…」
「必ず御迎ひをc参らせ候ふべし。」

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

a＝　　b＝　　c＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

〔例題一〕　ワ行上一段活用

問一　e

問二　e

問三　捕らふ・c・カ

問四　エ

問五　A　1オ　2ア　3エ　B　1ウ　2オ　3イ

問六　a　⑩　b　⑨　c　⑧　d　③　e　⑦

問七　a　ヤ行上二段活用・連用形　b　ハ行四段活用・未然形

問八　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　模範解答

問一　5

問二　①　なし・h・イ　②　あやしげなり・f・エ

問三　オ

問四　こ

問五　ざり

問六　A　ヤ行・下二段活用・未然形　B　マ行・上一段活用・連用形

問七　ハ行・四段活用・終止形

問八　すくなかるべけれ

問九　①

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　模範解答

〔例題一〕　①　強意　②　完了　③　完了　④　強意　⑤　強意

問一　ず

問二　しか

問三　詠嘆

問四　a　オ　b　エ

問五　①　キ　②　ウ

問六　ア　完了の助動詞「ぬ」の命令形　／　イ　打消の助動詞「ず」の已然形

問七　ア

問八　④

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　模範解答

〔例題一〕　①　自発　②　尊敬　③　可能　④　受身

〔例題二〕　①　尊敬　②　使役　③　使役　④　尊敬　⑤　使役

〔例題三〕　①　エ　②　ア　③　ウ　④　ア

問一　Ⅰ　ア　Ⅱ　ウ

問二　イ　①　ロ　⑤

問三　①

問四　ぬ…「ず」・打消　／　し…「き」・過去　／　られ…「らる」・自発

問五　a　り　b　る

問六　5

問七　④

問八　1

問九　2

問十　5

問十一　き

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

〔例題一〕　書こうかしら

〔例題二〕　①　意志　②　推量　③　婉曲　④　推量　⑤　仮定　⑥　適当（勧誘）

問一　c

問二　d

問三　イ

問四　4

問五　ア

問六　5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　模範解答

〔例題一〕　①　現在原因推量　②　現在推量　③　現在推量　④　過去原因推量

〔例題二〕　①　ウ　②　ア　③　ウ　④　ウ　⑤　イ

〔例題三〕　①　推量　②　適当　③　打消意志　④　当然　⑤　禁止　⑥　命令

問一　10

問二　イ

問三　A　らむ　B　けむ

問四　ア　3　イ　2

問五　1

問六　ロ

問七　2

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

〔例題一〕　①　断定　②　存在　③　（伝聞・）推定　④　断定

問一　ロ

問二　D

問三　（1）A　（2）C

問四　ニ　断定　ホ　断定

問五　D

問六　ウ

問七　a　1　b　4

問八　ホ

問九　A　⑥　B　②

問十　5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　模範解答

〔例題一〕 ① し…き ② まほしけれ…まほし ③ ける…けり ④ れ…り

〔例題二〕 ① エ ② イ ③ オ ④ ア ⑤ ウ

〔例題三〕 ① ウ ② ア ③ イ

問一 ウ

問二 ウ

問三 ①

問四 3

問五 イ

問六 1 イ　2 ホ　3 ト

問七 4

問八 風邪などをひきなさったら大変だ

問九 イ

問十 ① ア　② イ　③ ウ　④ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

〔例題一〕　①　ア　②　エ　③　イ　④　ウ

問一　ニ

問二　イ

問三　3

問四　1

問五　エ

問六　イ

問七　1

問八　A

問九　ニ（イは動詞「施す（ほどこす）」の連用形「ほどこし」の一部、ロは格助詞「して」の一部、ハは副詞「はたして」の一部、ホは形容詞「なし」の一部。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

〔例題一〕　①ウ　②ア　③イ

問一　イ
問二　5
問三　x　な　y　そ
問四　a　オ　b　イ　c　エ　d　オ
問五　エ
問六　イ　⑦　ロ　⑤　ハ　⑤
問七　カ
問八　エ
問九　な
問十　4
問十一　イ
問十二　2
問十三　ア
問十四　へ
問十五　2

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一　イ

問二　6

問三　a 1　b 5

問四　a イ　b オ　c ウ　d エ　e ア

問五　4

問六　ホ

問七　① c　② b　③ a

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　模範解答

〔例題一〕　①　差し上げる　②　（お）～申し上げる　③　お飲みになり（召しあがり）

問一　①

問二　3

問三　4

問四　おぼ

問五　ア　2　イ　1

問六　お休みになる（六字）

問七　エ

問八　エ

問九　玉鬘

問十　a　蔵人の少将　b　三の君

問十一　6

問十二　Ⅰ　ウ　Ⅱ　イ　Ⅲ　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

〈解説〉

① **活用形**は**下**を見る。本設問では「ども」。「**ども**」の上は**已然形**。よって、正解はオ。

② A　「**心得**」は覚えておくべき活用の動詞。**ア行下二段活用**。**活用形**は**下**＝「て」。「**て**」の上は**連用形**。

B　基本形は「酔はない」→「酔ふ」。よって、ハ行四段活用。活用形は下を見て、本来は「な」＝助動詞「ぬ」の接続から考える問題だが、助動詞は未学習の為、現段階では四段活用の「活用の仕方」で考えよう。そうすると、四段活用で「ひ」なので「連用形」とわかる。

③ ア「**劣ら**ない」、イ「**詠ま**ない」、ウ「**まさら**ない」、オ「**持た**ない」となるので、これらは全て**四段**活用。エのみ「とが**め**ない」となるので、**下二段**活用。よって、正解はエ。

④ 「ゐ」＝「ゐる」＝上一段活用。選択肢の中で上一段活用はアの「見る」。よって、正解はア。ちなみに他の終止形と活用の種類は、イ「来(く)」＝カ変、ウ「寝(ぬ)」＝下二段活用、エ「す」＝サ変である。

⑤ 空欄の上が「植」より、終止形＝「植う」の動詞。**活用語尾**＝**活用形**を考える。**下**を見ると「**、**」なので**連用形**にする。「**植う**」は覚えておくべき活用の動詞で**ワ行下二段活用**。よって、連用形は「**ゑ**」。正解はイ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

①　オ　②　Ａ　１　ア　２　オ　３　イ　Ｂ　１　ウ　２　ア　３　イ

③　エ　④　ア　⑤　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

〈解説〉

① カ変動詞「来」を読むためには、活用形がわかればよい。**活用形**は「**下**」を確認する。aは、下が「べかり」＝助動詞「べし」。「**べし**」の**接続は終止形**。よって、「く」と読むので、正解はウ。bは、下が助動詞「**む**」。**接続は未然形**。よって、「こ」と読むので、正解はア。

② 形を変える＝活用形＝「下」確認。Aは「、」なので、**連用形**。さらに助動詞ではないので補助活用ではない。よって、正解はア。Bは「仮寝」＝**体言**なので、**連体形**。こちらも補助活用ではないので、正解はウ。

③ 「**心得**」は覚えておくべき活用の動詞で**ア行下二段活用**。活用形は、下が「べき」＝助動詞「べし」。「**べし**」の**接続は終止形**。よって、正解はイ。

④ **空欄補充**の問題は**係助詞**が絡んでいるものが多い。本設問では空欄が「。」の上なので、活用形を素直に考えれば「終止形」か「命令形」になるが、**入試問題で活用形を考えるときに文末であれば、「係り結びの法則」が絡んでいることがほとんど**である。よって、上をざっと見て「ぞ・なむ・や・か・こそ」のどれかがないかを確認してみると、本設問でもやはり「**ぞ**」がある。したがって、**文末は連体形**となる。選択肢の中で連体形になっているものはエのみ。よって、正解はエ。

〈解答〉

① a　ウ　　b　ア

② A　ア　　B　ウ

③ イ

④ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第三講　「ず」／「き・けり」／「つ・ぬ」／「たり・り」／「ぬ」・「ね」の識別

〈解説〉

① 上が未然形か連用形で、「しか」と活用するのは、助動詞「き」（已然形）。よって、正解はカ（したがって、上の「合せ」は連用形）。

② 設問は「なりけり」の「けり」なので**詠嘆**。選択肢イが**和歌**だと気づけば解けたはず。

③ 上が連用形で、「ぬる」と活用するのは、助動詞「ぬ」（連体形）。下が推量系ではないので、完了のカが正解。

④ 「経（ふ）」は終止形が一文字の動詞、ハ行下二段動詞。活用形は下確認。「ぬれ」＝助動詞「ぬ」の已然形なので、傍線部は連用形。よって、正解はエ。

⑤ アは、**上**が「やみ」でマ行四段活用の**連用形**、もしくは**下**が「**と**」で上に係助詞がないことから**終止形**の「ぬ」。どちらから考えても**完了**の「ぬ」。イは、上が「見え」でヤ行下二段活用なので、未然形か連用形かここだけでは判断不可。よって下を見ると「に」がある。この「に」は接続助詞で上が連体形になるのだが、今は未学習のため、わからなければひとまずこの選択肢を保留。ウは、**上**が「聞き」でカ行四段活用の**連用形**、もしくは、**下**が「。」で上に係助詞がないことから**終止形**の「ぬ」。よって、ア同様に**完了**の「ぬ」と判明。残る選択肢エは、**上**が「返り」でラ行四段活用の**連用形**、もしくは、ウと同様に**下**が「。」で上に係助詞がないことから**終止形**。よってエも**完了**の「ぬ」と判明。そうすると、接続助詞が未学習でも消去法で答えは出せたはず。わからないものがあっても、このように**他の選択肢を利用して消去法で解くこともできる**ので、こういう考え方を身につけること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥　i　**上**が「聞か」でカ行四段活用の**未然形**なので、**打消**「ず」。活用形は活用表から考えてもよいが、いつも通り**下**を確認すると「。」なので、**係助詞**がないか上をざっと確認。「**こそ**」があるので**已然形**。ちなみに、「**こそ～ね**」だから**打消「ず」の已然形**と解くこともできる。

ⅱ　上が「汚れ」でラ行下二段活用のため、未然形か連用形かはここだけでは不明。よって、**下**を確認する。「**べし**」なので接続を考えると、この「ぬ」は**終止形**だとわかる。よって、**完了**の助動詞「ぬ」だが、さらに細かく意味を考えると、**下に推量系**がくっついているので、この「ぬ」は**強意**のほうがよい。選択肢を見ると強意があるので、これが正解。もちろん選択肢に「強意」がなく、「完了」しかなければ、完了が正解になる。

〔解答〕

①　カ　②　イ　③　カ　④　エ　⑤　イ

⑥　i　a　イ　b　オ　ⅱ　a　キ　b　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

〔解説〕

① 助動詞「る」の連体形。**上**が「思ひ知ら」で**心情語**なので**自発**。よって、正解はウ。

② 上が**e**段なので完了の**「り」**。ただし、選択肢を見ると「完了」がない。そんなときは、焦らず「り」のもう一つの意味を考える。正解は「存続」のエ（ちなみに、両方の意味が選択肢にある場合は訳して決めるしかない）。

③ 上が**u**段なので、**上からの一語（活用語尾）**のはず。マ行下二段活用動詞「もとむ」の已然形は「もとむれ」。よって、正解はア。

④ 上が**e**段で「け」だが、「生く」という動詞なので完了の**「り」**。選択肢の中で、上がe段はイとエだが、イは「け」なので確認してみると、「し」がサ変動詞の連用形なので、**「ける」で一語（助動詞「けり」の連体形）**。エは「照る」という動詞にきちんとついているので、こちらが正解。

⑤ 助動詞「す」の連用形。**下**が「奉る」で**尊敬語ではない**ので**使役**。よって、正解はク。

⑥ 助動詞「さす」の連用形。**下**が「給ふ」で**尊敬語**なので、**上**をさらに確認。**「人に」がない**ので**尊敬**。よって、正解はア。

〔解答〕

①ウ　②エ　③ア　④エ　⑤ク　⑥ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第五講　「まし」／「推定系の助動詞」／「希望系の助動詞」／「む・むず」／「じ」

〈**解説**〉

① 傍線部中の「まし」に注目。傍線部の上の「せば」に気づけたら、「**Aせば**Bまし」の**反実仮想**だとわかる。「秋の別れの深さを知っているだろうに」ということは、**実際は今「知らない」ということ**。よって、その解釈がきちんとできているウが正解。

② 「めり」は推定の助動詞。よって、正解はオ。

③ **文中**の「む」で、**下**が「人」＝**体言**。よって、**婉曲**のキが正解。

④ ③同様、**文中**の「ん（＝む）」で、**下**が「ほど」＝**体言**。よって、こちらも**婉曲**のキが正解。

〈**解答**〉

① ウ　② オ　③ キ　④ キ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第六講　「らむ・けむ」／「らむ」の識別／「べし・まじ」

〔解説〕

① 傍線部「けめ」＝助動詞「けむ」。文中にあるので厳密に言えば「**過去**の伝聞婉曲」。が、選択肢を見ると「伝聞」、「婉曲」はあるが、いづれも時制が「過去」となっておらず絶対に不可。逆に「過去」に触れているのが、選択肢ウかエ。「けむ」には「詠嘆」の意味はない。よって、消去法でウにするしかない。選択肢の場合は、このように臨機応変に対応すること。

② 「**むずらむ**」の品詞分解は頻出。「らむ」がｕ段についているので**「らむ」で一語の現在推量の助動詞**。「むず」が「むず」で一語か、「む」と「ず」に分かれるかは、講義中にも説明したように、「ず」ならば上が未然形になるが「む」に未然形は存在しないため**「むず」で一語**。よって、正解はウ。

③ ②と同様「むずらむ」が絡む問題。「むず」＝推量、「らむ」＝現在推量がくっついた形の場合は、推量と同じように「**～だろう**」と訳せばよい。本設問は意訳になっているが、「あるだろう」という意味にとれるものはアのみ。イは願望、ウは打消当然、エは過去＋詠嘆の訳である。よって、正解はア。ちなみに「**行幸**」は「**みゆき**」と読み、「**天皇のお出かけ**」の意味。

④ **空欄補充**の問題は**係助詞絡みが多い**。活用形で文末なので、係助詞がないか上を確認すると、係助詞ではないが「**いかが**」という**疑問語**がある。よって、**文末**を**連体形**に活用させることがわかる。下が助動詞ではないので、補助活用ではない「べき」になる。よって（１）はウ、（２）はエ。

⑤ 選択肢を横に見比べて違いを探し、わかりやすいところから解く。この場合は「べし」と「む」の接続と、係り結びの「結びの形」を使うと解きやすい。「候ふ」の活用形が、連体形と終止形に分かれているが、助動詞「**べし**」が**接続**しているので、**終止形**。よって、アとエは削る。次に、「べし」の活用形が、未然形と連用形に分かれている。「**ん**」（＝選択肢から助動詞「**む**」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

が**接続**しているので、**未然形**。よって、さらにオも削る。「**む**」の活用形が、終止形と連体形に分かれているが、**係助詞**「**や**」があるので文末は**連体形**。よって、正解はウ。

〔解答〕

① ウ　② ウ　③ ア　④ (1) ウ　(2) エ　⑤ ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第七講　2つの「なり」／「なり」の識別

〔**解説**〕

①　「なる」の上が「聞こゆ」。**「聞こゆ」**は**ヤ行下二段**活用動詞なので、**終止形**である。よって、正解はカ。

②　「なり」の上が「事」＝**体言**。よって、正解はウ。

③　伝聞の「なり」ということは、上が**終止形**（ラ変型＝連体形）になっているものを探す。そうすると、ウ「うかがふ」が四段活用で、見た目だけでは終止形か連体形かは不明であるが、他の選択肢に終止形が明らかにないため、ウが正解になるのがわかる。もちろん文脈判断をしなければいけない時もあるが、いかに早く正解を出すかがポイントなので、**焦って文脈判断をする前にまずは他の選択肢を確認してみる**ことも大事。ちなみに、アは動詞、イは「はかなげなり」で一語の形容動詞、エは「過ぐる」が「過ぐ」の連体形で、断定。オは、「よれよれになる」という意味の動詞「萎（な）る」。

〔**解答**〕

①　カ　②　ウ　③　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

〔解説〕

① 係助詞「か」は疑問か反語。「**かは**」は**反語**になる場合が多い。あくまでも多いなので、もちろん本当は文脈判断が必要になるのだが、まずは反語から考えるとよい。よって、正解はオ。ここでは、あくまで基本の確認テストということで「**かは・やは」＝まず「反語」**を身につけてください（実際の入試問題ですが、反語で正解の設問です）。

② 結びの省略の問題。係助詞の上が「**に**」で、係助詞は「**や**」なので、「**あらむ（あらん）**」が省略されている。が、選択肢に「あらむ」がない。では、次に考えることとして、「**や**」の**結びは連体形**。選択肢の中で連体形になっているものはアのみ。よって、アが正解（本設問は、未来の「む」ではなく、過去の「けむ」になっている例）。

③ 結びの省略の問題。係助詞の上が「**に**」で、係助詞が「**こそ**」なので、「**あらめ**」が省略されている。よって、アが正解。

④ 「**もこそ**」は「**〜したら大変だ・困る**」の意味。その解釈ができているのはイのみ。よって、正解はイ。

⑤ 入試単発問題で「の」が出題されたら、まずは「**同格**」から考えるとよい。設問の「の」の下に**連体形**を探すと、すぐ下の「恐ろしげなる」が形容動詞の連体形。よって、そこに「の」の上の体言＝「虫」を入れて、訳してみると「たくさんの虫**で**、気味悪いような**虫**を取り集めて…」とおかしくないことから、やはり同格確定（もしくは「の」から連体形までを省いて、「たくさんの虫を取り集めて」と確認した人もよいですよ）。選択肢アは主格「が」。イは「の」の下に、「いふかひなき」と**連体形**があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童（＝男の子の召し使いを指すことが多い）**で**、物怖じをせず、身分が低い**男の童**を召し寄せて…」とおかしくないので、これが正解。ウ、エは連体（修飾）格「の」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥　選択肢イの「の」は、下にある**連体形**「たる」（助動詞「たり」）の下に、「の」の上の体言「叟（＝老人）」を補って、訳が下に続いていくので同格の「の」。他の選択肢は、全て連体（修飾）格。よって、正解はイ。

⑦　設問は「**徒歩**（かち）**より**」（＝徒歩で）なので手段の用法。選択肢から交通手段を探すとイのみ。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　オ　　②　ア　　③　ア　　④　イ　　⑤　イ　　⑥　イ　　⑦　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

〔解説〕

① エのみ**上**が**未然形**で**仮定**条件。他は全て**上**が**已然形**で**確定**条件。よって、正解はエ。

② **活用形＝下**を確認＝「で」。「**で**」は**未然形**接続。「言ふ」（＝ハ行四段活用）の未然形は「言は」。よって、正解はア。

③ 副助詞「だに」があるので、**下を確認**すると「**ん**」＝「**む**」の助動詞があり、「**と**」**の上の**「**む**」なので「**意志**」の可能性が高い。したがって、この「だに」は「**限定用法**」。よって、「～だけは」となっているウが正解。ちなみに、「だに」のもう一つの用法「類推＝さえ」で訳している選択肢はないので、消去法で考えても「だに」の訳がきちんと訳出されているものはウしかない。

④ 「し」の**上が連用形**。さらに**下が体言**。したがって、この「し」は**過去**の助動詞の「き」の**連体形**。よって、正解はウ。

〔解答〕

①　エ　②　ア　③　ウ　④　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十講　「終助詞」／「ばや」の識別／「なむ」の識別／「呼応の副詞」

〔解説〕

① ラ変「あり」の**未然形**＋「ばや」（**文末**）＝自己**願望**の終助詞。よって、正解はエ。

② 「**禁止**」を表す終助詞で、動詞「おとす」の上に副詞「**な**」があることから、「**な～そ**」の構文。よって、正解はイ。

③ ラ行四段活用動詞の**連用形**＋なむ＝**強意**の**助動詞**＋**推量**の**助動詞**。よって、正解はエ。

④ ラ変「あり」の**未然形**＋なむ＝**他者願望の終助詞**「なむ」。よって、正解はウ。

⑤ 形容詞「良し」の**連用形**で、「良かり」なので「**か＋ラ変**」の補助活用。したがって**下に助動詞がつく**。よって、正解はオ。

⑥ 「**さらに**」が、「見いで**ず**」の「**ず**」＝打消と呼応して、「**まったく～ない**」の全否定。さらに「**え**」も「**打消**」と呼応して「**～できない**」。両方がきちんと解釈できているのはア。よって、正解はア。

〔解答〕

① エ　② イ　③ エ　④ ウ　⑤ オ　⑥ ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

〈解説〉

① 「に」の識別。**「にや・にか・にこそ」**で、その下が「、」か「。」の場合は、「あらむ（あらめ）」が省略されており、「に」の下に**「あり」**がある形から**「断定」**の「に」と判断。よって、設問文は「にや、…」なので「断定」。選択肢アも「に」の下に「あらず」と**「あり」**がある形から**「断定」**。ちなみに、イとオは動詞の連用形についているが、どちらも格助詞「に」。イのように、同じ動詞を重ねて、動詞の連用形についている「に」は強調の働きの格助詞〈例〉「泣きに泣く」など）。オも、動詞の連用形につき、動作の目的を示す働きの格助詞。格助詞「に」が連用形につくと、このどちらかの働きであるが、基本は体言・連体形につく。本設問では、イもオも連用形につく格助詞で、これが「格助詞」だとわからなかった人はたくさんいるだろうが、少なくとも断定ではないので、解答からは削れたはず。ウは、接続助詞「に」。エは「ひたぶるに」で一語の形容動詞。

② 設問文の「ぬ」は、**連用形に接続**しているので**「完了」**の助動詞。選択肢アの「に」が、**上が連用形**（もしくは**下に「けり」**があり、上が「死」「去」「往」ではない）から**「完了」**。よって、正解はア。

③ 選択肢エは**「往に」**で一語の**ナ変**動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、正解はエ。

〈解答〉

①　ア　　②　ア　　③　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十二講　「敬語」(2)

〔解説〕

① aは用言の下で「**聞こゆ**」なので**謙譲の補助動詞**。よって、正解はイ。bは本動詞で、「思」の下が**サ行**なので「**おぼしなし**」と読んで**尊敬語**。よって、正解はア。

② aは用言の下で「**侍り**」なので**丁寧の補助動詞**。よって、正解はウ。bは本動詞で、「つかうまつる」は**謙譲語**。よって、正解はイ。

③ **四段**活用の「たまふ」が**尊敬**。四段の「たまふ」は本動詞と補助動詞がある。**下二段**活用の「たまふ」が**謙譲**。こちらはほとんどが**補助動詞**で、**会話文中**や**手紙文中**のみで使用される。

④ 「おほとのごもる」は「寝（ぬ）」の**尊敬語**。よって、正解はイ。

⑤ a「おはします」は尊敬語。b「候ふ」は丁寧の補助動詞。cの本動詞「参る」は**尊敬**と**謙譲**の二種類あるが、**衣食乗関係**ではないので、この場合は**謙譲語**。

〔解答〕

① a イ　b ア　② a ウ　b イ　③ A イ　B ア　C ウ　D エ　E ウ　F エ

④ イ　⑤ a ア　b ウ　c イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。